り暖い指導がなされる事と思う。お互に共通の悩みを持つ我々中南米の教師にとって、一つでも多くのものを学び現地で生かし合い、互に苦労を慰め合い改善し合い、中南米に於いて、増々日本語が普及される様に努力するその心意気がよく伺えた。

第3時限は咸宜園で習字があり、石川先生は日本的な奥床しさと教養から滲み出る豊かな個性を合わせ持った美人教師で筆の運び方をていねいに指導して下さる深山幽谷と云った感じの、この咸宜園で竹の若葉に囀る小鳥の声を静かに傾聴しながら心をこめて筆を運ぶ。

書は心なりと云う師の教えに従って、心で筆を運ぼうとするが、隣りが気に掛り雑念即ち、迷いの心が直らず快心の作は1枚もなく只、半紙を汚すばかりであった。しかし、他の諸先生は、さすが御立派、物に動ぜずみな、快心の書をしたためられた。

基本の書、十王と人天の清書を宿題に出された。生れて初めて習字をする二世先生もみな大変上手に書かれた。

第四時限現地授業研究の時間を古谷先生に基本体操指導法を説明して頂く、古谷先生の本題への誘導の巧みさに感心する。

冗談と思って笑っていると、はっと気がつき深く考えさせられ、笑いの中に健康である事の尊さを痛感させられ、体育の真の意義を考え直した。

夕食後、センターで8時半より相談会をする。

議　題

1. 第2期以後の夕食を外食とする希望者多く、夕食なし
2. 関西旅行希望地　京都、奈良地方2泊3日とする。
3. 通大前夜祭における中南米組民族舞踊衣しょう、振り付けの件、山さんをリーダーとして構想をねる。

相談会に友人、知人郷里などから頂いて来たお菓子を持ち寄ってお茶を飲みながら和気あいあいの楽しい相談会であった。

城田　記

第26日　　7月12日　火曜日　晴

国立東京学芸附属学校　大泉学園　見学日。

移住センターを7時半、一同揃って、根岸より品川に向いて出発。

途中団長、石川先生を始めに、小田、佐藤先生の3人は、横浜から、急行に乗ると云って別コースに替える。残った我々正善先生より承ったコースを横見せず、まあーすぐに、品川ー池袋ー西部池袋ー大泉学園前まで直行。正善先生との待ち合せ時間10分オーヴァして9時半到着。

急行に乗ったはずの3人の先生も未だ来ていない。

きりんの様に首を長くしていらした先生より「別行動を取るなど、もっての他」と、少々のお叱り

を受ける。団体組織として、当然のことである。

待っても来ない３人のために、正善先生、駅員に頼んだり、掲示板に連絡をしたり、真剣になっていらっしゃる先生のお姿を見て、私は、目頭を拭かずには居られなかった。子供のために一生懸命になった親の愛を感じた。「これからは、先生に心配を掛けさせない様に気を付けましょう」と自分自身の心に命じる。

大泉学園では、長谷川副校長の笑顔の挨拶を受け、副校長自らの案内で授業参観させて頂いた。

普通学級の他に、海外帰国子女教育学級がある。ここでは、外国帰りの子供達のために個別指導を行っている。

初級、中級、上級と分かれている。ステップ方式の勉強指導を行っている。

平均８０％出来れば、年令に関りなく次級に上げるとの由。

各教室に掲げられた「わたしたちの学級目標」が目につく。

正しい日本語を話そう。

○　進んで友だちを作り仲よくしよう。

○　目的を持ち最後までがんばろう。

普通、教室に依って目標が違っている中で、一貫している所に教師達の連帯意識を感じた。

副校長先生のお話では、「内は、国立なので、校舎も設備も不充分なので」と云うことでしたが、どうして、どうして、他校では、見られない、スタジオ室まであった。

放送委員の生徒達が、その日の連絡事項を昼食時間を利用して、テレビで各教室に流していた。

教材教具も各教室、各自に備えつけられている。

重箱詰めの心づくしのお弁当で、お昼食を済ます。

午后１時より、当学園の先生３名と共に懇談会を行った。予定の３時を過ぎて、名残りを惜しみ乍らも、玄関前で長谷川副校長先生と共に記念写真を撮る。

水色のワンピースに白い衿の女生徒、白のシャツに灰色のスボンの男生徒のかわいらしい顔に「さようなら」の言葉を交して大泉学園を後にした。帰りは、各々自由に、新宿まで、正善先生といっしょ。後は解散。それぞれ足の向く方へ。

榎　記

第２７日　　７月１３日　水曜日　　晴

晴なんだけど、パーと陽光輝くではなく、乱れ雲しきり。

早目に玉川学園前に着き、弁当を買って、ゆっくり丘を登る。ハードハイキングにびっくりして、ストを起しかけた。私の足もどうやら周囲の態勢に恭順の意を示し始めている。ひと安心！

１０：４０分　文Ⅱ　３０７教室にて　　片山先生　　“日本語を考える”

日本語のアクセントについて。

日本語の音には、強弱はなく、高低であり、法則性が少いため余りこだわりすぎぬこと、つまり、文脈を考えれば理解でき、意志が通じる。だから、そのような言いまわしを工夫する方が、学習者の表現意慾を削がなくてよい。又より美しく、正しく話すという点について、標準語もよいが、あたたかい情感のあふれる方言の美しさもあり、その辺のデリケートをつづく考えさせられる。

助詞について。

に，と，へ，の使いわけについて、多数例を出され、ハッキリと分けられるものと、どちらにも使えるものとあること。日本人及び日系人は何となく体得して使うけれど、一度外国人もしくは全然日本語を知らぬ日系人相手の場合は何となくではすまされぬ問題であり、最近その方面の研究もされてをり、角川小辞典によいものが出ていると紹介された。

世界各地に於ける、日本語学校は、それぞれ異る事情を有しているが、同化度の高い地方、又は外国人学習者の多い処では真剣に考えるべき課題であることを痛感する。

中食後、予定表が変り、１３時から通信大学部の会議室に於て夏期スクーリングの選択課目決定の為の集会。国際部のセニヨリータ吉成さんの付添を頂き、先づ係りの方の説明が行われ、正善先生のアドバイスでそれぞれ希望の課目を選び、後スクーリングのビデオテープを見せて頂いた。

正善先生の現地授業研究の時間は、その尽、会議室で１８日の鎌倉小旅行、８月4.5.6日の学校劇夏期大学の選科オリエンテーションとして、色々細やかな指導を頂き、５時少し前に終る。

なお、事業団本部から、授業参観に、加藤氏が来られたが、予定変更のため、オリエンテーションに出席された。

一同、今日は、帰りがおそくなったので、夕食は７時に頂く。

入浴後、担任先生よりの、宿題にとりくみ、今日も１日有益に終らせて頂いたことに感謝を捧げ、寝に就く。

村上　記

第２８日　　７月１４日　木曜日　晴

第２時限　現地授業研究　正善先生

今日は、９校まとめて、５分間に限られて説明する。一番知りたいことのたくさんある時間なのにいつも時間不足の感多い。

３時限・４時限、　教育機器　山口先生

機器を授業にどのようにとりいれているか、の１６ミリ映画を観る。

生徒のためには視聴覚教材は、非常に良いだろうが、このような機器は我々の学校ではとても使えないと云うより機器を手に入れることがむづかしい。

４時限の始めに、教室の中にある色々な機械を使わせていただく。

ＯＨＰ，スライド，１６ミリ映写機，ＶＴＲ，ティーチング・マシン等、これらの半分は使えそうなので（現地で）真剣に、半分の機器は夢のようなので、一寸楽しみながら、動かしてみる。

ＯＨＰを使ったら、漢字やひらかなの筆順を教えるのに便利ですね。との質問に、山口先生は、漢字を書く時は、ひとつだけ約束をして、あとは自由に書きやすいように書かせるのが良いのではないですか、との答に、本当だとうなづく。

約束とは、書く時は"上から下へ、左から右へ"書くように、と云うこと。

漢字を書きたがらない理由のひとつに、筆順をうるさく云うことがあげられるかも知れない。

上記の約束を守れば、あとは自由にさせたら、もっと漢字を書くのに苦労しないで書くようになるかも知れないと思った。

夜、江崎さんより、出身地研修計画書を明朝出すように云われて、それぞれ記入したり、江崎さんに相談したり。

ブラジルからの親善少年団一行、久しぶりにセンターにもどり、おそくまでにぎやか。

二階堂　記

第２９日　　７月１５日　金曜日　雨後晴れ

１０：４０分　リトミック　小野先生

先ず音楽に合わせて、踊りをする。

集中する：音楽を聞いて、話をふくらませ最高潮の所を画用紙にクレパスで描く。絵を見て性格が分る。大胆な子はダイナミックに描く。なわとび競争をする。次はなわを持たないでなわとび競争をする。忍者の親分がいわれた通りの動作をやる。

ジャンケンを違った体形で２人でやる、次に２つのグループに分かれ、ジャンケンをし遊びをする。

最後を盛り上げて終る。今日はリトミック最後の時間だ。

現場の教育にすぐ役立つ実技で童心にかえり、楽しい時間だったがアッという間に過ぎたのが惜しまれる。

１３：００分　海外日本語教育　上原先生

洋の東西を問わず手を合わせて目を閉じる。この人は祈っているのだという事は、どこでも通じる。

祈るという事を子供に教えて欲しいとの事。

義務教育廃止論：何才になったら学校へ入れるべきだという事は野蛮なことだ。人間を駄目にするのは増長することだ、先生がおこるよりも子供に手を合わさせておくことだ。感受性の強い子はボロボロ涙を流す。

言葉は、身体と１つになって気分、心、気持ちを伝えさえすれば子供は分る。それを切り離すと面白くない。私達の言葉は感覚の言葉で嬉しい時は、いい声が聞こえる。

言葉は生きていないと駄目だ。

１４：４０分　　海外日本語教育　　上原先生

○　言葉は音として指導する事が正しい。日本語と外国語の違いは、日本語は母音がくっつく。
　基本の音どりが違う。単音のとり方が基本的に違う。

（例）　ガアガア、アバアバ、　感嘆詞　ナー　ネー、子供は甘えながら発音の練習をしている。
　心と音をいっしょにする練習をする。（こそあどことば）知識でなく音づかいで数える（ああ
　して、そーお？　ああ　どう？　どう　みて　あげよう。）

○　（文末語）最後どんな音で言い終っているか、気持ち、意志が最後に出る。
　いやだもん、　こうするんだもん　（不満）

○　組み合わせをしてみて教える。（サアサア　ダッテサ　ソーサ　……なのよ）

○　日本語にはラ行のつく言葉がない（ラッキョウ　ランプ）（外来語）

○　日本語学習は文法から入って遅く、方言から入って早い。音を聞き分けるのが早いからである。
　（例）イーデスハンソン（大阪弁）

○　日本文化の特長は、沈黙から来ている。
　（例）　能、お茶、生け花、無言を見つけている、観賞するといい。
　しゃべっていない時間が重要で、それが感動させる。
　授業後、上原先生の著書、感情教育論が希望者に配られた。（価格1,３００円）
　ユーモアたっぷりの、皆をあきさせない授業であった。

貝原　記

第３０日　　７月１６日　土曜日　　曇時々小雨

７：３０ｈ　起床の音楽、　７：５０ｈ　ラジオ体操、　８：００ｈ　朝食といつものリズムに乗って行い、朝食後は、それぞれ自由行動の日、８月に入ると土、日も研修スケジュールに追われて自由時間がない為、今月中に親戚、知人まわりとそれぞれ忙しい。週日は一生懸命研修に励み、週末は計画を立て、精力的に動き回って３か月の研修期間を有意義に過さなければならない。週末は"休養"というのは、日本にいるお年寄りがすることであって我々他国からの若い（？）者は、勉強、社会見学共にもっと行動的でありたいと思う。

朝食後、私達４人（二階堂、木場、羽広、富永）は、いつもの時間に玉川大学へ出かけた。大多数の人が第２期のスクーリングの時に、朝日先生の「音楽教材」の科目をとりたかったが定員オーバーの為、授業を受けることが出来ず、大変残念がったのを国際教育室の吉成さんが気の毒に思ってくれた為か、朝日先生の特別授業を今日の土曜日に計画してくれたが、急なことだったので、それぞれ予約済で折角のご好意を受ける事が出来なかった。しかし、立笛の講習希望者には、お教え下さるということで、結局上記４人が出かけることになった。はじめてのことで笛の穴を押さえる手が緊張し、硬直してしまって変な音がピーッと出ては大笑い。

上達の誠に遅い中年生徒を、お教え下さる朝日先生のご忍耐はいかばかりかと、お気の毒に思った。

それをお顔にも出さず、終始にこやかに、親切、丁寧にお教え下さった朝日先生は本当に素晴しい先生と感謝した次第である。９０分の授業の終りには、ほ．ほ．ほたるこいの歌をようやく吹けるようになり、先生も生徒もmuito　cansaclo（とても疲れたの意）と言った感じ。

昼食を玉川大学の食堂で済ませ、玉川学園駅にて解散。

研修開始以来、早くも約1か月が経過。学生気分になって勉強できることは、この上もなく楽しい。

家族の理解が、なくてはできなかったこの研修を感謝の念をもって無駄にしないよう今後も頑張っていきたい。

富永　記

第３１日　　７月１７日　日曜日　　曇時々雨

昨夜、同室の小田先生、兄弟と横浜球場での巨人対大洋のナイターを観戦後弟の家に外泊センターに午前中に帰える。

２．３名の外出の先生方以外はよもやまの話に花を咲せて和気あいあい研修、また日常生活に馴れて心もおちつき、なごやかな日曜日、気温も夏らしく、センターの隣りの校庭では野球試合の応援の声が聞える。正善先生の御協力のもとに通大の前夜祭の踊りの衣装の事で前日からお話がありましたが、前年度の見本として御奥様がわざわざセンターまで届けて下さった。御骨折り感謝致します。

夏空に高く弧をえがく白球に

永久と思いしエルモンと手を握る

（兄弟）

石川　記

第３２日　　７月１８日　月曜日　　小雨後晴

今日は、鎌倉方面見学、数日前からパンフレットが配られ集合、北鎌倉駅案内者正善先生の奥様と玉川学園通大国際部の地主さんと９時２０分に待合せる。

センターを出る時、雨がぱらついていたので各自傘を用意し、旅行がスームスにと心配した。

予定コースは円覚寺～建長寺～長寿寺～鶴岡八幡宮～鎌倉大仏～藤沢駅解散。

鎌倉駅に着いた時に小高い山に囲まれて自然をそのまま生かした民家などで名所、古跡を思い浮ばれる。各寺院とも老樹に囲まれた古代建築、神秘的なおごそか、自から身がしまる。長寿寺では特別のお招きの中食神殿のお座敷で全員ビールで地主さんの音頭取り、研修の成功と健康を御祈り乾杯、"ＶＩＶＡ"丁寧に運ばれる御料理、お供を食べる如く神妙、最後のお握りは皆様遠慮勝、小休止、次に長谷観音とお地蔵様、外国人の参拝者も見られる。

鶴岡八幡宮の境内は広く座禅の参拝者をむちでビシャビシャの修行、珍しげに皆足める。

おみやげ店では目移りしながらも買い求める。

鎌倉大仏では時間余裕たっぷり大仏をバックに深重に撮影。

今日は良き案内者、正善先生の奥様、そして地主さんの後を小学生の遠足の如くぞろぞろ先生一服いかがでしょうか。はいはいとタイミングあわして下さる。

今回の研修生には5名、中南米生れの先生が参加しているので、今日の古跡めぐりは興味を持たれたよう、とにかく訪日1か月解放された気持ち、明日から頑張りましょう皆さん。

石川　記

第３３日　　７月１９日　火曜日　　晴

朝から暑い日である。昨日の鎌倉小旅行でゆっくりとくつろぎ又、今日から勉強である。

第２時限　現地授業研究　正善先生の授業も今日で最後だと思うとみんな少し淋しそうでもあり、張り切ってもいた。しかし朝からの暑さに一生懸命に張切っている割には、目の方が、自然に閉っていくのか、目を大きく見開らくのに苦労する先生もいく人か。スクリング伊豆長岡学校劇夏期大学の主任である金平先生が来られて、１５分間程、学校劇について説明して下さる。

先週正善先生より宿題が出され、発音、単文、作文について指導上で困っている点について書いて出した。

今日は、その問題点についての御説明とＮＨＫテキストの発音練習をみんなでする。

第３時限　　習字　石川先生、これで石川先生の御指導も終りだと思うと淋しい、静かに、真剣に書く、今までのまとめとして、十王と人夫の清書を半紙に５枚づつ書く、その後で子供への書の指導について話して下さる。

子供の書の指導

1. 童心を伸ばすもの。　2. お手本をよくみる。　3. 墨をよくする。

4. 筆のもち方。　イ．すみを筆に充分にふくませ１点１画を正しく書き、手本と比べよく見極める。　ロ．筆をよく直す。

5. １枚１枚書き上げたものを順に重ねてゆく。　6. 書いたものの中で１番良いものを選ぶ。

7. 姿勢が正しいかどうか、筆が正しく動いているかどうか。

8. いつでも一生懸命にやったと云う喜びが残るように。

書は人なり、その書に無心に生命が表われているものが良い書である。

石川先生の御説明を聞いていると、自分の清書した１０枚の書をそっと机の下にかくしたくなる。しかし、それが出来ないで、自分の恥を人前にさらけ出して、御批評を得る覚悟をした。

諸先生は大変腕が上達され、見事な書をしたためられた方もいく人かいらっしゃる。

第４時限　　石橋先生、全人教育論、玉川教育の知育、徳育、美育、その他健康　について熱のこもったお話しをして下さる。

最後に、子供を知的存在と見るよりも全人的存在として認めることが教師にとって一番大切である。教育の秘けつは、子供を尊重する事にある。と云うお言葉に、頭をガンとなぐられたような気がした。今后、このお言葉を生かせる教師になり度いと今までの自分を深く反省した。

夜8時より中南米民族舞踊の練習をする、みんな疲れてぐったり。

城田　記

第34日　　7月20日　水曜日

第1期最後の授業の日

- 2時限目　日本語を考える　片山先生

(1) 漢字について

- 筆順　• 象形文字　• 漢字の構造　等の指導あり。　後　質疑応答

そして、記念写真（先生と共に）

- 3時限　4時限目は　全人教育論　石橋先生

全人教育とは、すなわち、　知育　徳育　体育　この3つである。

（よい頭）（きれいな心）（強い身体）

「身を立つるとは、全人となることなり、全人とは、三才一貫の身なり」

（熊沢蕃山）

「神なき知育は、知恵ある悪を作ることなり」

また、教育の秘訣とは、子供の人格を尊敬してやることが第1である。

「角を矯めて、牛を殺すな」

「君等の競争相手は、無限大の大空と、かっこたる大地である」

（小原国芳先生）

「大自然の大きな営みの中で、活かされながら生きている」

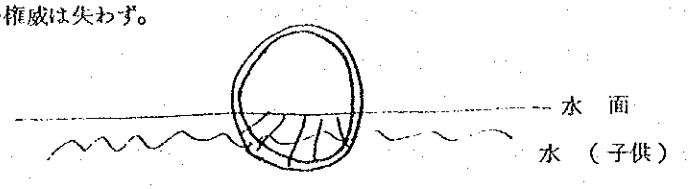
（小原国芳先生）

「進みつつある教師のみ人を教うる権利あり」

（ディスターヴェーク）

教　師　道

教師たる者、水車の如くなければならない。半分は子供の中に入り込んで、信頼を勝ち得ながらも教師の権威は失わず。



そして、石橋先生自らの小原先生を通じての体験を話して下さる。

石橋先生を通して、いかに小原先生の全人教育のすばらしさが伺われる。

玉川大学で授けた、先生たちの御指導を１つでも多く吸収し、現地へ持ち帰るのが私達に与えられた使命である。

束の間の１ケ月、しかし、得るものは、大きかった。熱意ある玉川の先生方の御指導を、私達１４名が、必ずや現地で活かし師の恩に報いることにしよう。

私の最も尊敬する先人の言葉の中に「四つの恩」の話がある。

(1) 父の恩 (2) 母の恩 (3) 師の恩 (4) 仏の恩　人間が生きて行く中で、忘れてはならない「四つの恩」である。

第３５日　　７月２１日　木曜日　　うす曇

今日は、藤沢にある、いすず自動車工場見学の日。

長後駅で案内して下さるセニヨリータ吉成さんと会い、タクシーで工場へ。

先づビデオテープで自動車が出来上って行く過程を見せて頂いて、係りの方の注意に従って、帽子をかぶり、目鏡とトランシーバを持って工場内用バスで第１工場まで行く。此処藤沢工場はファミリーが時代にそなえて１９６１年に完成した１１４万㎡という広大な敷地に、理想的な最新設備の許、見事な流れ作業システムで整然と働いている。

小学校の先生のように、やさしいものいいの係りの方の案内で、プレスライン、溶接ライン、エンジン組立ライン、車体組立ライン、総組立ラインと次々見せて頂く。従業員の皆さんは、なれたゆとりのある態度で、一瞬のムダもない働きぶりである。ここでは、かの高名なロボットも７８台働いているそうで、鋭い音と火花を散らし乍ら、溶接をしているロボットにみとれて立ち止まる。

ゆっくり降りて来る。ミニケーブルカー、器材をのせて進む無人カー、狭い通路を往来する。

ジープに似たミニ運搬車、子供達が見たらどんなにか喜ぶだろうと思う。最後に補修を待つているロス車の車庫を通り、従業員用の大食堂に目を丸くして、コース終り。

あたたかい、ミルクのもてなしを受ける。短い時間だったが、世界に名高い日本の自動車生産の実状を目の当りに見、説明を聞いて、社会の自動車に対する無公害とか、安全化とか、更に又省資源化などの要請に応えようにする積極的な姿勢と情熱に深い感銘を受けた。人々の役に立つ良い製品を提供することが、企業の使命だという。その使命観こそ日本産業をして今日あらしめた源動力と思う。

帰りは、バスで長後駅まで送って頂き、そこで解散。正午。

それぞれ自由行動をとる。

夜、８時から約２時間、パラグァイの山真美子さんの音頭とりで皆さんは通大前夜祭出演のため、南米踊りの猛練習に励まれる。

今年の演物は、パラグァイとペルーの民俗舞踊を合せたすてきなもの、大成功疑いなし。

１１時。おやすみなさい。

村上　記

第３６日　　７月２２日　金曜日　　晴

国際交流基金見学

現代は"地球時代"といわれています。地球上に住む人類が、平和に暮らしていくために、日本も積極的に自国の文化を他の国々の人々に知ってもらい、同時に他国の文化をも知らなければならないのが、現代の"文化交流"であり、その仲介の役を果たすのが、１９７２年１０月に設立された国際交流基金です。

係の岡さんの詳しい説明を受けながら、教材等を見せていただく。

中南米にも、教師の派遣・教材の寄贈・成績優秀者招へい研修、などの事業をしていると云う。

見学を終えて、正善先生の案内で、同じ四ッ谷駅近くにある"凡人社"と云う、日本語教材の専門店へ寄り、それぞれ必要な教材を求める。そして解散。

夜は、通大祭の踊りの練習に汗を流す。

二階堂　記

第３７日　　７月２３日　土曜日　　午前しとしと雨、後晴

約３日間位の宿泊で居らした栃木県からの先生方２名、高校生１５名達も今朝は帰えられてしまい、又、私達にも３日間の自由身になる事で各先生方は外泊が主で、お買物やらで姿を消してしまわれセンターはまるで、嵐が過ぎ去ったようにヒッソリと　……　私達４人（貝原、木場、村上、羽広）は江崎さんと譏子の庁舎へ外人登録やら、通大前夜祭に使用する衣裳の生地等を買に出かけ、１２時にセンターへ着く。

午後からは１人でブラリと横浜へ買物に出かけた。

夏休みに入ったので電車の中、お店、デパートも子供達で賑わう。又、どこのお店でもバーゲンばやりで、果して品物は、どこまで良いか、質が悪くないかしらと考え考え物を手にする。

そうして居る中についつい名高い"高島屋"へ足が運ばれ、「見る丈ならお金はなくならない」と安心して見る丈見て帰る。このデパートはまさに品物も良い品ばかりで、モダンでシックな感じ、店員さんも皆カチッと正装して居るので気持が良い。日本の店員さんは大低と言って良い程応対が親切で丁寧なので「居らっしゃいませ」と御辞儀されたら「ハッ」と立止ってしまう。時間のながれは早く１日も何時の間にか終ってしまい、この調子だと「ブラジルへ帰るのも、もう明日」等と言う時が来てしまいそう　……　（ホーム・シックではありませんが　……　）この１週間も無事に過す事が出来感謝の至りです。

羽広　記

第３８日　　７月２４日　日曜日　晴れ

待ちに待った、３日続きの休日で里帰りをする者や、買物に出掛ける者あり、残り組は、正善先生の宿題の短歌作りや、研修のまとめや、手紙書き等する先生もあった。

高松の叔母が土曜日よりセンターの３０７号室に宿泊しているが、横浜の従兄がセンターに迎えに来たので３人で上野方面へ外出する。３人揃って話をするのも久し振り、積もる話は尽きず、夕刻センターに帰り叔母と入浴す。　１０時半就寝。

貝原　記

第３９日　　７月２５日　月曜日　晴後小雨

先週土曜日からの休日（第一期研修が終了）で諸先生方も訪問先に出かけられセンターには２，３人の先生方しか居られない。

先週土曜日から、アンテナの調子だと思うが、テレビの画像が出なくなり、３日間パラグァイを思い乍ら手紙書きやら、正善先生からのラブレター（研修に関する感想、短歌）の清書をする。

とても長い休日に体を持て余し、こんな事ならどこかに旅行でもすればよかったと反省しきり。

日本に来てから既に４０日が過ぎようとしている。此の間種々南米育ちの故か？　納得のいかない点にぶつかりとまどいを感じながらの日本生活につかれ気味である。

何んと言っても気になるのは一見親切そうにみえる日本人達の態度である。（極く一部の人間であることはわかっていながら何んともさびしいことである）。

玉川学園で学ぶ自分に取って、日本の教育（特に玉川精神）には感動を覚えながら、どうしても何にか引っかかるものがあることに苛立たしさを感じる今日此の頃である。

何にはともあれ、先ずは自分自身との戦いである。明日からの第二期研修に備えて力一杯頑張って行こう。明日のパラグァイの子等の為に。

小田　記

第４０日　　７月２６日　火曜日　晴天

第１期での研修は、現地での内容を含めての特別講義に依って教育の基礎、教師の立場、プライドetc生徒の心理を読み取り、外国語的指導法の探究、教材の量、質、これ等にプロとして常に上向な姿勢で体当り、なお、かつ困難を打開する精神がなければならない。決して形式的では職場を不利に落し入れる。

今日は第２期スクリーン、開講式、通大生約3,４００人、体育館に勢ぞろい、中南米研修生も最前列特別席にて参加させていただくのは光栄のいたり総長の強調は教える事は学ぶ身を知れ、このスクリーンをいい機会として有意義に生かすよう、自己自覚頑張ることだ。科目も明日から撰択も自由ですが、それなりに責任がある。

研修生の他に早く語り合う友達が欲しいようなあせりがある。

研修生も日常生活に馴れてグループ的な行動ですが各自のプライドのもと心配無用さすがだ。

若人の学びの友よ　意気燃える　語ろう語そう　玉川の森

石川　記

第４１日　　７月２７日　水曜日　　晴

今日はスクーリング第１日目。梅雨あがりの猛烈な暑さ、日本にきてはじめて、晴天を見たという感じの日であった。この暑さの中に学ぶということは、並大低の覚悟ではできないことと思った。

今年は、はじめての試みとして、午前中は海外移住センターでの講義、午後はスクーリングでの自由選択ということで、第３時限より、それぞれの選択科目にわかれ、ての勉強ということになる。

第３時限（１２：４０～１４：００）は、教育心理学、日本教育史、国語（専）Ａ，Ｂ等。

第４時限（１４：２０～１５：４０）は、図工教材、保育内容絵画製作、国語（専）Ａ，Ｂ等の選択となった。

第５時限の音楽（一般）では我々１１名の中南米研修生が一緒になり、小宮路先生の授業を受けることができた。５００名内外の生徒が工学部４５０の大教室に入り先生を待ち受ける。

入室していらした先生をみたら、玉川学園小学部の授業参観の際の音楽担当の先生で驚いた。

あの日、私達が音楽室に入ると６年生の生徒が素晴しいハーモニーで一生懸命で歌っていた。ピアノを弾くのも、指揮をするのも生徒で、先生は歌が終ったあと、とても上手にできたと褒めていらした。私達参観者に対しても「一年中のうた」（生れ月で立ちあがって握手をする歌）とか、血液型の歌（同血液型の人が立ちあがって握手をする歌）など、人と人の心をつかんで、なごやかにしてくれたあの素晴しい先生であった。８０分の授業時間中、とにかく全身をもって楽しく教えてくれる先生に心より感激した。

いつか音楽の朝日先生がおっしゃつていたお話も思い出す。木登り中の女の子に気軽にオーイと挨拶したあと「この子は、クラスで１番ピアノが上手なんだよ」と紹介したという。その子はどんなに自信をつけ、喜んだことだろうと、その思いやりに感心したと言われた。それから小学部の玄関マットの上で男の子達が室内マラソン器だと言って走っていると、ご自分もご一緒になって生徒達と走ったというお話だった。その時より小宮路先生の暖かさに心うたれていたが、今日実際に授業を受け、本当に素晴しい先生だと痛感した。８０分中、一ときも気をゆるめることもなく、全身で、明るく、楽しく教えて下さる。その熱意、その暖かさに、私達は時のたつのも忘れて、ひきこまれていった。

3,０００余名の通大生に混って、今年だけのはじめで、最後のスクーリングとなることが残念であるが、精一杯頑張っていきたいと思う。

富永　記

第４２日　　７月２８日　木曜日　　晴れ　２６℃～３１℃

起床７時ー体操ー朝食ーと平常通り。

いよいよ本式に夏に入った感じである。午前８時というのに、とても蒸し暑く大変だ。アマゾンのマナウス郡移住地に在住の私であるがこの蒸し暑さにはおどろいた。（アマゾンは暑いがカラッとした暑さで朝夕は涼しい。）

９時１０分～１０時４０分迄、　センター４階講義室にて白鳥先生の最初の授業ー日本語児童教育。現地に適した文化的な教材　＝　教科書絶対必要との事。

本日は教授法（Metoolologia）、テキスト補助教材等の説明をし乍ら、お話、歌、絵書き歌、ゲーム工作、絵カード等、幅広く、実際に見せて下さったり実演もさせられヒャーとしたり　……楽しかったり　……　此の様に多くの教材（が）を揃えましたなら中南米の日本語学校の生徒達も余り苦労せずに多く学ぶ事が出来るのではないかとつくづく思った。

１０：４０分授業終了後かけ足で階下へ。受付にて昨夜副団長（坂田）さんが気を配って注文された弁当を受け取り、玉川学園へと出発／１２時１０分到着し、食堂で弁当を食べ、それぞれ各自専攻された教科室へと別れ、第３時限ー４時限、そして５時限目には私達研修生１１名、音楽一般の工学部４５０号室で一緒に授業を受ける。ハズム様な音楽のリズムにのって生き生きと声高らかに若返った感じで通信大生約４５０名にまじって歌いまくる。一曲歌う度事に先生全身でブラボーブラボーと拍手／凄く賑かで全く楽しい、ひとときを過す。

５時２０分（終了し）本日第２日目のスクーリング終え全員真っ直ぐ『第二の我が家』センターへ。

此れから約一か月間のスクーリング、暑さにも、勉強にもちょっぴりきびしいが、健康には充分気を付け、皆さん頑張りましょう。♪♪♪♩♩

YAMOS　PARA　FRENTE/

DESEJO　A　SAÚDE　E　ESFORÇO。

木場　記

第４３日　　７月２９日　金曜日　　晴れ

６時半目覚める。このセンターの近くに小学校があって、夏休みになってから毎日、ラジオ体操があり、その前に何があるのか分らないが、いつも６時半頃になると、とに角子供達の賑やかな声がする。どこの国でも子供は元気なものだなあと、ぼんやり聞く、もう太陽は、まばゆく暑い、８時１０分前からラジオ体操をし、朝食９時より白鳥先生の日本語児童教育の授業あり、ペルーの学校で日本語教育をされた経験豊かな先生、そのお言葉の一言一言が情熱あふれ、響きがある。身近かな材料、紙袋、板切れなどで作ったカード、人形等、それを使って実演させ先生は他の教材を揃えていらっしゃる。１分も無駄なく、カード、テキスト等の応用を発表させたり、限られた短時間の超複式授業を、白鳥先生自から示して下さる。只感心、しかし、感心ばかりはしていられない。名を指されて前へ出て、すぐ２分で寸劇をさせられたり、全く、目が廻ると言うより、びくびく、ヒヤヒヤ。

9時半、授業が終るとすぐ弁当抱えて、根岸駅目指して、かけ足それにしても、日本の夏は暑い、スクーリングを待っていた様に、その日から暑くなる。全日、31℃～32℃、汗拭きながら、大学へ。文Ⅱへ続く坂は厳しい。名付けて心臓破りの丘とする。

教育心理学は、二階堂先生、小松先生と私の3人、専門用語ばかり黒板にお書きになる西谷先生。

さすが、大学の講義だと感心しながらも、ノートをとるのに一生懸命、Hebb の行動学入門の説明の中で感覚的変化について、同じ子供でも英国で生れたものは英語を覚え、アフリカで生れたものは特別学校へやらなくとも、その国の言葉はよく知っている。と言うこと、を話され、私達のように外国にあって日語教育にたずさわる者にとって感じることは、上原教授のお言葉と同じく、言葉は音声であり、それを常に身に感じることこそ、覚える（自然）ことである。この事を現地の父兄がもっと理解して下さったならどんなに子供が楽しい日本語を話すだろうかと思う。国語専B大熊先生の「教師は、プロに徹せよ」と言うお言葉の通り大変厳しく、毎日漢字のテスト、お言葉は大変厳しいがとても優しい先生とお見受けする。

第5時限、音楽一般は小宮路先生、楽しく歌わせ、すぐに覚えさせてしまう。これは先生のお人柄だと感心、とにかく、ほめて下さる。楽しく歌うその合間に「生徒を裁きの目で見てはいけない、そんな教師になる勿れ」「心から出た歌は心に通ずる」「比較をする先生、これは一番きらわれる」こんなお言葉がしんみりと出る。

全人教育を身を持って実践していらっしゃる先生、只、頭が下がる。日本へそして、この玉川大学で研修を受けられた事を感謝いたします。この立派な先生方のみ教えを現地に帰って、よく噛みしめ自分を反省しながら、子供と共に歩んで行き度い。5時20分授業を終え、センターに走って帰る。

本当に走って帰ると言う表現がぴったりの急ぎよう。どの先生も汗びっしょり、そしてくたくた、しかし、今夜は、8時より国際女子研修センターより小南みよ子女史と岩村善次先生が来られ、花嫁移住の問題、又、海外より日系子女の花嫁修業の為の日本研修の御説明を受け懇談会を開く、みな熱心に話し合う。　10時開散。　皆様大変御苦労様でした。

夏バテにならないように体に気をつけて、頑張りましょう。

城田　記

第44日　　7月30日　土曜日　　晴

スクーリング始まって、最初の土曜日である。

今日は、ラジオ体操も無し、午前中のセンター内での講義もなし。有るのは、スクーリング第3時限目のみ。誰もがゆっくりと、朝寝坊を楽しんだ様子である。

毎日、慌しい生活の中で、時間的に余裕が有る日は、本当にうれしい。洗濯がゆっくり出来る。

手紙が書ける、何よりも昼食を丸呑みしないで済む。

私が研修に来て以来、一番辛いのは、時間に束縛される事である。

あの広大な、アマゾンの真只中で、例え隣家と我家が、３０分もの時間のずれがあったとしても、別に困らない様な、ルーズな生活が身に染み込んでしまっている。

４０余日を過ごして、やっと、どうにか、日本の時間に馴じめた様な気もするが、やはり、未だ何処かに無理があるらしい。

私丈かと思っていたら、2.　3.の先生方も胃が痛いなどと言っているのは、かけこみ昼食をやっているせいと思われる。

もっとも、此の夏の暑さでは、胃も悪くなるのも当然でしょうけれど。

とも角、３時限目の授業へ、みんなニコニコして、各々分散する。石川先生と小田先生、３時限目の授業は取らず、今日は、留守番役。「ウラヤマシイ」の声も出かかったが。……

さて、土曜日となると、帰りも、まち、まち。真面目に帰って行く城田、二階堂先生に、荷物を承けて、木場、羽広先生と共に足は町田へ、ショピングに向う。あれに、これに、欲しい物を抱え込んでジタバタしていると、レジ係言わく「どちらから、いらっしゃいましたか？。」と、木場先生に伺う。さもあろう、千円札と１万円と間違えたり、安いからと言って同じ品を山程買い込んだり、彼等の目に異様に映るのは当然だろう。いいさ、どうせ旅の恥は掻き捨てて、なのに木場先生、「はい！アマゾンから来ました。」真面目に答えている。そこが又木場先生のブラジル的素直な良い所の人間魅力、他人の場合ではない、手元を見たら、なんと自分も全く同じ行動をしている。

羽広先生はと、見れば、斯くも又、２千円の買物に５千円札と千円札を付けて渡している。センターに戻ってから、各々自分の失敗談で腹をかかえて、笑って夏のストレス解消。今日１日も終る。

日本の夏の暑いこと、アマゾンの涼しい夜が懐しい。

榎　記

第４５日　　７月３１日　日曜日

土曜日の授業のあとの買物を昨夜は遅くまで見せたり、失敗談に話がさいて笑ったり、安い買物を羨ましがったりして過したが、今日は各自連絡を取って親戚、友人、知人へ現地からの言付けられた事などを伝えに渡しに出かけられた。

センターにいる先生方は洗濯、掃除のあと近くの街へ買物しにぶらぶら出かけたり、明日の朝のセンターでの講義はないので少しのんびり過しました。

佐藤　記

第４６日　　８月１日　月曜日

今日は、センターでのクラスが、お休みで、何だかゆったりした気分。

少し遅くまで寝ておりました。（佐藤先生!!いつもおこして下さってありがとうございます。先生のおかげで１日が始まっています。）

午前１０：００ごろ皆、そろって玉川へ。

まず、３時間目は、東恩納先生と一緒の「家庭科教材研究」へ。我々の「もしかして、料理や裁縫の実習があるもしれない」。というひそかな期待を見事に無視して、大谷先生の講義は続く……。

先生は、「家庭生活のあり方」というテーマについて話して下さりながら「現代社会の問題点」、「日本の社会の現状」などを教えて下さる。実習は、ないけれども、実は、いつも色々と考えされられ教えられる期待以上の内容のクラスで、我々もクラスに出るのがとても楽しみである。

さて、４時限目は、佐藤先生、二階堂先生、富永先生、東恩納先生と一緒の「絵画製作」。

深見先生の「絵画製作」は、純粋な先生のお人柄のせいか、心がとても落ちつく。

５時限目は、また工学部に戻って、大きなクラスいっぱい学生が集まり熱気ムンムンの音楽一般のクラス。小宮路先生に代わって高浪先生。小宮路先生とは、また違った「元気一杯!!」といった感じの魅力を持っておられる。「友だちはいいな」を教えて下さる。表面的な友達ではなくて、心と心がつながり合い、本当に必要な時、助け合える。そういう友達になることが大切だと、この作者の先生は、教え子が自殺をしてしまった時痛感したということだ。とってもいい歌で感動した。

パラグァイに帰ったら、日本語学校の小学生にも、学生寮の中学生にも高校生にも教えたいと思った。小さい体いっぱいつかわれた大きな指揮が私たちの声をいつのまにか引き出してしまう。

全くすばらしい。

友だちは、いいな　　どんな時でも
心と心が　　かよい合う
友だちはいいな　　いいな。

山　記

第４７日　　８月２日　　火曜日

８時５０分。「さあて、今日は、時間がありませんから、新幹線で行きますよ！」

此の美しいソプラノは、正善先生の奥様である。白鳥先生の御講義で、楽しく遊ばせ乍ら、日本語に関心をもたせて教える教授法の中の一つ、折紙を指導して下さる。チューリップ、ヨット、かもめ、ばらの花そして蝶々。皆子供にかえったように明るく、楽しそう。

１０時半。センターを出る。駅で弁当を買う人、食堂に急ぐ人など、それぞれに別れて急ぐ。

１２：４０分。日本教育史。今日は寺子屋に於ける寺子の学習順及び使用された教科書についての講義である。寺子達は、まづ「いろは」「数字」「漢字」と習い進んで、これらを使った短句・短文の練習に入る。此の際、特に教材として用いられたのは、手紙文に頻用される慣用句だったそうである。また、この段階の寺子達の覚える漢字は約3,０００位で、それを毛筆で書いて覚えたのだから大

変だったろうと思われる。

１４：２０分。国語専科。工学部の４階なので、緑の空気を胸一ぱい吸い乍ら歩いて行く。

講義は、音韻の定義について音声に対する音韻という概念を委しく説明された。音韻論には音声学の単音に相当する音素という単位が設定してあって、その音素はひとりで又は、いくつかが結合し、配列されて一つの語を形づくるけど、その配列や結合の仕方には言語毎に一定のきまりがある。

日本語は、 ① 母音音素(v) ② 子音音素(c) ③ 半母音音素(s) と ④ モーラ音素 a) はねる音 ン (N)、 b) つまる音 ッ (Q) で、この分け方は比較言語学に役立つことを細かく説明された。それで、体系の異なる音素をもつ外国語を表記するのがむずかしい訳であるが、矢張り統一が望しいので、外国語の表記に関する指導書によった方がいいとのことである。

夜、センターで民族舞踊のための衣装を裁つ。９時から舞踊練習。皆さん汗びっしょり。裁った衣装は職員江崎さんの奥様がぬって下さるとのこと。あとは金、銀紙をはり、毛糸のおさげと造花だけである。折紙の宿題も、感想文も書けなかった。また明日にすることに決め、時計を見ると午前１時。

おやすみなさい、皆様。

村上　記

第４８日　　８月３日　　水曜日

午前は、昨日に引きつづき、正善夫人先生の折紙細工。

和紙を使って、日本人形を折る。時間が短いので、先生が紙をみんな各々の大きさに切って、そろえて下さってあった。我々は、それを順に折り重ねていくだけ。

それでも、衿とすその色をまちがえたり、帯の前とうしろの色ちがいが出来たりしたが、一同すばらしい出来上がりに大満足。Ｏ先生、"これボクが作ったんだよって云ってもだれも信じないだろうナ。"と自分の作品にみとれていたりしてとても楽しく、有効な時は、すぐすぎて時間ですよー。に一同あとかたづけも、先生への挨拶も、そこそこにセンターを飛び出し、学園へ。

ガタゴト電車にゆられている時間が、とても、もったいないように思える。

午后は、各々選択した科目を受けに右へ左へわかれていく。

小松　記

第４９日　　８月４日　　木曜日

今日もすごい暑さの中、我々は、伊豆長岡での学校劇夏期大学へ行く。

電車の中は涼しくて快適。だが降りたとたんにムッとする暑さ。伊豆長岡駅から迎えのホテルバスや劇関係の方の車に分乗して、会場の長岡ホテルへ。

午后１時、大広間で開会式。タタミにすわって講演をきく。開会式終了後、選択した分科会へ行き、それぞれ貴重な時間をすごす。

人形劇の分科会では、スポンジのような材質のものをハサミで形を作っていき、ボンドではりつけたりして動物の顔が出来る。型に切ってある洋服を縫って指人形の出来上がり。男の先生方も、汗を流して針を動ごかしていた。

１日中、何をするのもタタミの上ばかりなので、足が痛くてすばらしいごちそうも、味が半分よりわからないように落ちつかなかった。

東恩納　記

第５０日　　８月５日　　金曜日　　晴

伊豆長岡２日目

冷房のほどよくきいた部屋で気持よくすごした夜。一同よく眠れたような顔。

９：００～２：００まで	分科会
２：００～３：００	昼の集い
３：００～４：００	即興劇講座
４：００～５：００	即興劇演習（各グループにわかれて）
７：００～９：３０	キャンプファイヤー（室内）

今日も１日、予定通り進んだ。それぞれの分科会では、楽しい実習が出来た様子。

時間のたつのが早いように感じた分科会であった。

昼の集いでは、第８分科会の講師、名古屋、むすび座、丹下進先生による軍手人形劇、うさぎくんとくまくんを観せていただき、１人２役の手の動ごき、声の出し方まで、観る人を引きこむようなみごとさに一同感心するばかり。

夜のキャンプファイヤーは、ホテルの大宴会場で催された。

ローソクを使ってのキャンプファイヤーは、始めての事で、印象的であった。各グループにわかれて昔話の即興劇をする。１０分間の劇はなかなかむづかしく、どのグループも時間をオーバーしたようだが、楽しい観劇であり、また、我々もそれぞれのグループで熱演した。

キャンプファイヤーの時間が終って中南米組有志によるサンバの踊りで、交歓会が開かれ、みんな汗びっしょりになって踊り、楽しいひとときをすごした。

終ってからも余韻、覚めやらず、歌う部屋、討論の部屋、おしゃべりの部屋等々いつまでも明かりは消えそうもない。

二階堂　記

第５１日　　８月６日　　土曜日　　晴

伊豆長岡学校劇夏期大学にて。

今日は、その３日目の最終日となり、お名残惜しい。

昨夜のキャンプファイヤー、ひき続いてコンパ（自由参加５００円たちばなで）と皆さんさぞお疲れだったとみえ、食堂も何時もよりぽつぽつと食をとられた方が多いようでした。

よくすずめのさえずりで目を覚ますと言ったり聞いたりもしますが、このホテルの周囲は森に囲まれて居るので毎朝、蝉の鳴声でおこされてしまう。こんな経験はじめて!!……

今日のプログラムは：　９：００講演（演出と劇場）劇団民芸、演出家　内　山　　鵜

　　１１：００　　本年度のまとめと来年度への課題

　　１１：１５　　別れの集い

　　１１：３０　　閉　会

午前９時までに荷物まとめて皆さん、大宴会場へ。

演出家、又は、この学校劇の会長さんの息子さん－内山　鵜様の１時間半程にわたる、御講演素晴らしかった。演出家ともなれば、中々厳しいお話っぷり：姿勢、歩き方、目の動き、口の開き方等々「１人１人の登場人物に自分の生命がひそんで欲しい」とか。

最後に別れの集い－全員でシュプレヒコールによる演出（木村たかし）、それから「学校劇夏期大学のうた」「あしたの歌」、この雰囲気とても印象的であった。

"夏が来れば思い出す伊豆長岡学校劇の集いを　……"

ホテルの玄関では事務局の方々に見送られ、ホテル専用の小型バスで駅まで、Ｌ特急踊り子に乗車し、熱海まで。その間、緑あふれる景色、青々と広がる海、疲れもどこへやら、ふっ飛んで、……

熱海では国際室から吉成さんが、この暑い所を待って居られた。

（１４：３０）タクシーでＭＯＡ美術館端雲会館へ到着（チエック・イン）。

午後一休みした後７，８人位で熱海へ散歩。

ホテルからの海景色は最高。それに連られ足どりも軽く（疲れで足、身心ともに棒状）浜辺へ、浜辺へと、たどり着いた所は自然も何もなく、現代化された建物（ホテル、ホテルばかり）有名な貫一お宮の金色夜叉の碑も小さく囲まれているだけで、ロマンチックな感じ等味わえる事が出来なかった。

そこで記念写真を１枚。お土産も買った、いざ帰るとなった時、私と木場先生２人だけ、どんどん歩いて行くうちに石段にぶつかり、マァ頑張って、この２本足で急激な坂を登って行きましょうと決めたのは良いが、何んと似た様な石段が次から次へと、あせれば、あせる程足はもうグラグラ……

お蔭様でつらい、楽しい日本の思い出話、又この激しい運動で夕食をおいしく頂けた事に感謝しました。

羽広　記

第５２日　　８月７日　　日曜日　　晴れ

午前７時、いつの間にか部屋中明るくなっていた。この瑞雲会館の和室に昨夜から１部屋に６人づつ合宿している私達中南米日語教師は急いで起床して、ふとんを押入れにしまって７時半の朝食にのぞむ。

テラスから海を臨むと緑の山の中腹にある、この瑞雲会館を囲む景色は絶景で壮厳な感に打たれる。

昨夜書いた葉書４通、瑞雲会館のポストに投函す。８時荷物を瑞雲会館へ預け徒歩でＭＯＡ美術館へ向かう。

隣館でお土産を購入する者あり、私もカメラのフィルムを買ってカメラに入れる。９：００美術館見学。入口左側に流れ落ちる滝の飛沫を眺めながら、入口を入り山上の本館まで上へ上へと続く幻想的なエスカレーターで２００メートルを昇る。国宝３点重要文化財５３点、重要美術品４７点を包む約３千数百点の作品が並べてある。その内容は、絵画、書籍、彫刻、工芸等、日本、中国をはじめ東洋文化の各分野にわたっている。どの分野をみても鑑賞価値の高い保存状態の良好な作品が多い、絵画においては、鎌倉時代の歌仙絵、室町時代の水墨画、近世の障屏画や中国・宋元時代の絵画の名品があり、書籍では古筆切や和漢の禅僧の墨跡、陶磁器として茶陶や絵磁器の数々がある。伊東深水の描いた「深雪」「三千歳」の優雅な着物に包まれた美女の佇いに、しばし見とれていたり、８枚の屏風に岩から空にとび立つ千鳥の群の壮快さを描いた平福百穂の「巌頭むら千鳥」の絵に感嘆したり!!

記念に「近代日本画の巨匠たち」と「モーア美術館」の本を買って出口に向かう。隣館の食堂で食事をして１３：００時、熱海発エル特踊り子１０号で第１陣センターに帰る。午後４時センター着、洗濯や手紙書きする者あり。第２陣、第３陣次々にセンターに着く。

４日間に亘る、伊豆長岡熱海の貴重な研修旅行の体験を大切に！

さあ、明日より、又スクーリングに励もう。

貝原　記

第５３日　　８月８日　　月曜日　　晴

伊豆長岡の夏期大学も終了、又、今日から本格的な勉強に打ちこもうとは思うが、このうだる様なむし暑さに通学だけでグッタリと言った感じ。

午前中の８：５０～１０：３０は東京外大付属日語校の河原崎先生の口頭表現その１．とても暖かで、熱心で、話しの上手な先生で、とても楽しい講義であった。

どのようにしたら子供に話しをさせることができるか。

どのようにしたら子供に作文を書かせることができるか等というお話は、対称が大人であるか、子供であるかというちがいはあってもとても有意義であった。教師が燃えなかったら生徒も燃えない。

好きな先生の為には生徒も頑張るものだとおっしゃられたように私達も生徒にとって魅力ある先生になるよう頑張りたいと思う。

１０：３０、授業終了と共にかけ足でセンターを飛び出し、玉川のスクーリングへと直行。

大学食堂にて昼食をかけ込み（流し込むという感じ）で、１２：４０、始業の第３時限にすべりこみ。とにかく慌しい。

教室に座るなり、どっと汗が流れる。真夏のスクーリングは、とにかく楽ではない。第３時限中、訪日以来、はじめての地震に驚いた。震源地は神奈川でマグネチュード４とか。ものすごい横振れで中々やまない。女子学生はキャーキャー騒いで隣の人に抱きついてブルブルふるえたり、男子学生の中には机の下に、かくれようとする者もいた。我々中南米組は、ただ驚くばかり。屋根が落ちてきたら、これで終りかなんて覚悟をきめたりして落ち着いた、その態度は見上げたもの。

第５時限は、小宮路先生の音楽一般。有名な作曲家であるにもかかわらず、決して威圧した態度がなく、本当にふんわりと包み、こまれるような暖かさと迫力。どんなに上手に歌えなくても、決してダメという言葉を使わない。「すばらしいですね」と言って下さる、そのお言葉に又、勇気百倍。

小宮路先生は本当に素晴しい先生である。

富永　記

第５４日　　８月９日　　火曜日　　晴れ　　３０℃～３４℃

早朝より全く蒸し暑く体操後は汗でびっしょり。

本日の朝食はカフェー。ワー嬉しい一、○○さんは、□□□さんに砂糖のＮＥＧＯＣＩＯ－ＯＫ／

ニコニコ顔で一杯のコーヒーから　……♪♪食後、身の回りの整理をし、８：５０分～当センター４階講義室にて河原崎先生の２日目の授業「口頭表現」。本日の授業は「教材を作る」のテーマである新聞のちょっとした記事「赤でんわ」常連さんの文章より語句を書き抜き、複合動詞→接尾語→自動詞→他動詞→言葉の使い方→会話等をユーモア、たっぷり、時間をかけて、細かく説明して下さった。同じ言葉でもその時次第で意味が随分違ってくる。

説明中に落語家の様な表現をたびたびするので、とても楽しく笑いが止まらず、あっと言う間に時間が経ってしまう。

昨日は時間より多く授業をしたので、本日は１０分早く終り、「此の１０分は皆さんにサービス」と言ったので又一笑い。　１０：３０分１同駆け足で玉川大学へとセンターを出発／

各自、食堂で昼食を掻き込み１２時４０分、第３時限授業へ滑り込みセーフ。と言う具合に実に忙しい毎日である。（胃が悪くなるのも無理がない）。

そして第４、第５時限とそれぞれ第１期のスクーリング最終日の講義を受け、７時過ぎセンターへ帰着。各自夕食の心配／　食堂へ行きましょうか……？御弁当を買いましょうか……？と言って各々何んとかする。毎日が多忙で、気持を落ち付けてレポートOu　Carta de amor（短歌）の返事を書くのは何時も深夜……？　皆さん健康には充分気を付けスクーリング第２期も頑張り出来る丈多くの物を玉川大学から収穫し第２の母国あるいは母国へ持ち帰えりましょう。

木場　記

第５５日　　８月１０日　水曜日　　晴れ

昨日で玉川大学でのサマースクーリング第１期が終了し、今日は中南米から来た先生方は休みである。他の通大生の方々は、第１期末試験で大変なことと思う。

大学の方は休みでもセンターに於いて、口答表現についての河原崎先生の講義を受ける。非常にユーモアのある先生で時間を感じさせない話し方に敬服する。

講義の間中、笑い声が上り、アット言う間に時間がたって行くことにもっと時間的な余裕がないものかと思ったりする。

今日の講義の内容は、

話し方の技術について、

毎日、少しづつでも訓練することが大切である。

1. 場面をうまく利用する事 → 場　面
   - 直接場面
     1. 小場面→自己訂正（おしゃべり）
     2. 中場面→他者訂正
     3. 大場面→他者訂正
   - 間接場面 → 一方通行
2. 簡単に小さくまとめる → 要　約 → 主語と述語関係をはっきりする。
3. どう言うふうにあたえるか→ 技　術 → 原則として主語が頭に、
4. 時間が大切である → 時　間 → 時間の流れに沿って説明してゆく
5. 段落が多い。
6. 適当なくりかえし
7. 間

上記のことを頭にうかべながら訓練することにより話すことが苦にならなくなってくると言われる。

午後は、玉大にて通大生による音楽祭に参加する。各グループに別れての発表会があり、それぞれ２曲づつ合唱し大変すばらしいハーモニーに感激する。

５時半から通大祭の出しものである民族舞踊の練習を小学部のグランドでやる２度３度と練習をくりかえすうちに、うまくまとまり皆んなホットした感があった。

練習する内にむだを省いたり、つけ足したりして何んとかまとまりがついたことに皆んなの気持ちでまとまりを見たんだなあと感じる。後は本番を待っ丈頑張って行こう。

小田　記

第５６日　　８月１１日　木曜日　　晴

今日からスクーリング第２期が始まった。

午前中は、センターで藤田先生の文型、文法についての講義を受け終って、先生に挨拶も、そこそこにかけ足で駅へ。スクーリング今日から選択科目の新らしい部門へ行く。

５時限目に、希望者５人で石川やよい先生に習字の練習をみていただく。

同窓会室のタタミの部屋で、あわただしかった１日の最後の時間、静かな時間をすごすのは、ホッとした気持になる。

夜は、４階のクーラーの入る部屋で、スクーリング１期のレポート（感想文）書きに一同頭をしぼった。

二階堂　記

第５７日　　８月１２日　金曜日　晴

８日に関東、中部に地震があった。その次の日から気のせいか、少し涼しくなったように思う。風が少し涼しい。しかし、レポート締切りが迫っているので、深夜まで勉強をしている為か、朝は、ラジオ体操に間に合うのがやっとの先生もいらっしゃる。

午前９時１０分前、文型文法について藤田先生に講義を受ける。学生時代習ったはずの文法も、先生の御質問に対してあまり自信がない。

今日は、数人の先生がドル交換を江崎氏に御願いする。講義が９時２０分に終り、その後１０分程の時間に、パスポートの番号と署名を入れ、各々カバンをかついで駅目指して走る。走り通して、もう２ケ月が過ぎようとしている。何と早い事か。日本に行ったら、少しは、肌も白くなって、少しは、女性らしくなるかと思いの外肌の手入れどころか、日に焼けて黒くなり、かけ込み、スベリ込みの忙しい毎日である。まだ、２週間続くお蔭で身軽にはなったが、足が強くなって、日々逞しくなって行く。

４時より、中南米を語る会が文２　５０３で行なわれた。小田先生が簡単な中南米一般についての説明をし、その後、質問に答えると言う型で６時１５分迄続ける。熱心な質問功めに合い、答える先生方は、一生懸命であった。そこから親しみが急に増し、名残り惜しい別れとなった。又、逢う日を約して、開散。

その后、コスモスに於いて夕食をする。これは、玉川大学国際部よりの招待であった。正善先生、片山先生を囲んで楽しい一刻を過す。

暑かった１日の疲れも冷たいビール”ジュース”でふっとんで話しに花が咲く、程よく酔った？ところで解散。

センター着、１０時きっちり、都合よく、時間通りに帰って来られ門限に間に合う。

レポートを書かれる先生は、これから　……　ゴクロウサマ

民族舞踊の準備をして、日誌を附け終わると１２時半。

デワ、オヤスミナサイ

城田　記

第５８日　　８月１３日　土曜日　　晴

８時５０分から、昨日に引き続き、藤田先生の文法の勉強あり。それも今日で終りである。

藤田先生に「おしょうさん」の名前の由来を聞いた所で授業終了。

月日の流れは、矢の如く、消化不良の頭を抱えている内に、授業はどんどん進んでゆく。

けれども、今日は楽しい日になりそう。それは、白鳥先生より御招待あずかった日であるから。

スクーリングの勉強も上の空、目指す彼方は茅ケ崎にある白鳥先生の別荘。先生の示して下さったマップをたよりにしながら、第１陣、２陣、３陣それぞれ、都合の時間に合わせて出発。

私は、第２陣、とんがり帽子の三角屋根の家に辿り着いたのが４時過ぎていた。その時、第１陣は、白鳥えりさんと共に、海の方へ出ていた。

白鳥先生と御主人の暖いお出迎えを頂き、冷たいビールでのどを潤す。

音楽はサンバを流して、緊張を柔げて下さる先生御夫妻のお心遣いがとてもうれしい。先生御夫妻と３０分程おしゃべりをして、海へ行って見る。台風が近づきつゝある由。嵐の前の静けさ、しかし海は荒波。寄せては返す怒とうのうねり。ふと已れが歩んで来た追憶に浸る。

感傷の刻は過ぎ、白鳥先生より地理案内の説明を受ける。潮の香を満喫しながら帰り着くと、第３陣が着いて待っていた。数名は、各々事情があり、全部で９名が揃った所でカンパイ！

先生御夫妻とえりちやんを中心に話は各々の国へと展開していく。過去の話から未来へとつきる時を知らず。御主人が先に立って下さった、ごちそうの数々に舌鼓を打つ。あまりのおいしさにお腹が１杯で身動き出来ない程いただいてしまった。

外に出て、星を仰ぐ、今宵は何十年に１回の流星が落ちる日とか、えりちやんを中心に花火を上げたり、星を眺めたり、時間は、全く停止した様に、夜が深まるのさえ忘れてしまった。ふと気が付くと、もう１１時、名残りは尽きないが、おいとましなければならない。

御主人に駅まで送って戴き、センターに辿り着いたのは真夜中。素晴しい事一言につく１日であった。

榎　記

第５９日　　８月１４日　日曜日　　朝から雨一時太陽も出たり雨がふつたり

昨日は白鳥先生の御招待を受け、茅が崎で楽しい一時を過ごしたので、朝の目覚が（皆様も）遅く各々用件の有る方は外出され、他の人達は、洗濯、掃除……一番心に引っ掛かっているレポートに取り、組んで４階の室へ行っている人、各自の室で黙々と書いている人で１日中静かでした。

夕方、外出先から帰られた人からの土産物で少しは賑やかになり、夕食後は又レポートに取り組んでの勉強です。速いもので２ケ月が過ぎ去りました。あと１ケ月の日本生活もあっという間に走り去っていく感じです。

佐藤　記

第６０日　　８月１５日　月曜日

今朝７時ごろ、窓の外を見てみたら、横なぐりの大雨。どうも台風５号の影響らしい。（台風６号は熱帯低気圧になったとか……）朝のクラス、久々に河原崎先生登場!!今日は「視聴覚教材」についてのビデオを使った講義をして下さり、とても楽しかった。新聞記事から切り抜いた文章をもとにして、テープにふきこんだり、河原崎先生のお宅の皆さんが出演のおもしろい会話テストのカセットテープや、「サザエさん」のビデオなどを使って、教材の作り方を教えて下さったが、私たち南米の日語教師に一番必要な事を教えていただいたと思う。日本では、毎月　毎年ぐらいに新しい教材を購入したりすることができるが、それができない私たちは、自分たちの受けもっている子どもたちに合った教材を、向こうにある材料で自分自身で開発していくかないからだ。

「教材の作り方さえ知っていたら、どこにいても、どんな相手にでも教師をやって行ける」と河原崎先生は言われた。

それからいつものように、皆さんと共に走りかげんで玉川へ登校し、お昼を今日は、冷麦とサラダを食べ、その後３階の児童心理学Ａのクラスへ……。二階堂先生、貝原先生、小田先生、石川先生、富永先生、東恩納先生といっしょに受けているが、教授の日名子先生のお話しは、実に興味深い。

今日は、「知能の発達」の続きだったが、知能を発達させるためには、①　まず強い体をつくる。②　言葉の教育をやる。③　情緒的な教育をする。ことだそうで、今幼稚園児にまで英才教育をやろうとしている日本の現状は、かえって逆の効果だと強調された。また、適応ということも知能の重要な部分である、だから「思いこんだら百年目!!」と自分の頭をしばってしまうのではなく、この場合はこう、この場合はこんな風と新しい環境や刺激に対して、性格・知能の柔軟性を持つことが、これからの社会を生きていくためには、特に重要である……ということでした。

日本人である私たちは、「くそまじめ」といわれるほどある面において融通がきかないことが多く自分をしばり他人をもしばるようなことが気がつかないうちにあるじゃないか、柔軟性のある心と頭を持ちたいものだと思いました。

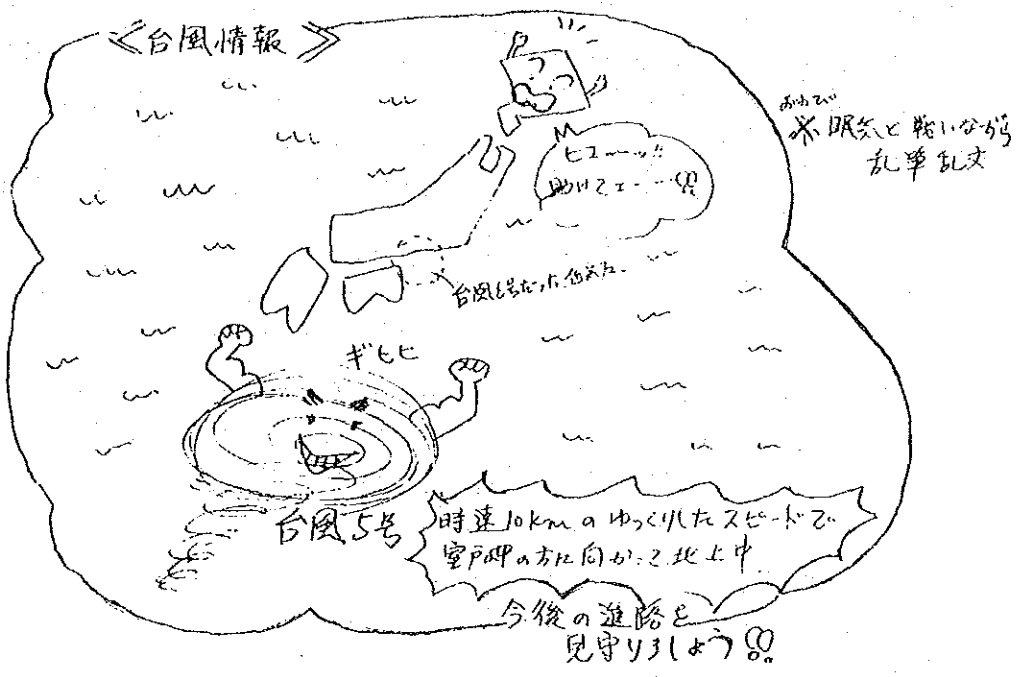
あっもうＡ．Ｍ．２：００ですので、後の事はサラサラと書きます。その後もクラスに出て、それから、城田先生、二階堂先生といっしょに国際教育室に行き、根岸で夕食をすまし７：００にセンターへ。テレビで台風情報を見て九州や四国が進路にあたっていることを知り少し、鹿児島の家族のことが気になってTelしたが留守でますます心配しながら３階へ。しばらくしてから、いよいよ明日に迫った通大前夜祭の南米の踊りの衣装作りのため、全員４階の第２会議室へ。今まで皆で力を合わせて練習してきた踊りの最後の仕上げとして、衣装合わせ。１２時すぎまでかかって、どうやら終わり、後は本番にそなえて寝るばかり。皆さんほんとうにごくろう様でした。今までレポート書きで連日すいみん不足、今日こそは、少しゆっくりおやすみ下さい。こうして、皆で協力し合ってやってきたこと、それ自体がとてもすばらしいことなんじゃないかと思います。

後は、本番で誰かがころんでも、またおさげの髪の毛がどっか飛んでも結果なんかどうでもいい……

いや、やっぱり良くないですので、明日もがんばりましょうね。楽しく、美しくおどりたいものです。（美しくは無理？）　それでは、今日は、この辺で　……。

最後に「今、あなたの願いを何でもかなえてあげましょう」と問われるならば、「はい!!３日間ぐらい眠らせて下さい」。と私は答えたい!!

山　記



第６１日　　８月１６日　火曜日　　雨、台風

朝、ちょっと青空がみえたので、台風は行ってしまったかと思ったらまもなく降り出し、やはり台風はまだ居た？らしい。

今日は、通大前夜祭、昨夜おそくまでかかって衣装合わせや、足りないところを足したりして準備完了してはりきって来たのに、台風は動ごきそうもなく居すわってしまい、グランドでのキャンプファイヤーは出来ず、体育館で決行となった。

充分準備をし、はりきっていたのに、お国自慢の中南米の踊りは、スピーカーの調子が悪く？

半分より披露出来ずに中途半ばな終り方をしてしまい、残念で仕方がなかった。

それでも、通大生のみなさんとてもよろこんでくださり、いっしょにサンバなど、ぶつかり合い、汗びっしょりになって踊ったりして、楽しい夜のひとときをすごすことが出来た。

東恩納　記

第６２日　　８月１７日水曜日　雨

楽しみにしていた前夜祭も終り、ほっとした気持で、和やかに朝食を頂く。

雨は少し勢いをおとしたかと思うと、又もり返して風と共に吹きつけている。来た当時のしとしと雨とは全然違う。黒雲が慌ただしく右往左往し、何とも気味悪そう。併し、今日は午前センターでの御講義だけなので、濡れなくてもすむ。私には十何年ぶりかの雨で、ものなつかしくもあるけど、それは家の中にいて雨脚を眺めている時だけである。

今日は「教授法について」小峰倶子先生の御講義。８：４０分より始まる。

Ｊuegos Comunicativos ：コミニュケーション・ゲームと名付けられた成人対象日本語授業に行って、楽しみ乍ら学習した内容をより一そう高める成人のためのあそびの方法を指導して下さる。

メキシコの現地で長い間（６ケ年）教鞭をとられただけにラテン系人の気質をよく御存じでいらっしゃるので、ペルーでも成人講座で取り入れたいものである。

どこで、どのようにして、行うかについて。

① 目　　的：

聴解力を増す、音声的表現力を養う、教師との親密感を高める、単調さを救う、固くなりがちなふんい気を和らげるなど。

② 教　　材：

（手軽なもの）万人向きで、皆の興味をそそるもの、はっきりした具体的でわかりやすく、少しユーモラスなバラエティーに富んだもの。

競技、勝ち負けがあって、気分を盛り上げるもの。

実用的なコトバの運用に重点をおいて、場面もそれに合わせたもの。各自のレベルに合った内容であること。あそびの人数に合ったものであること。

教師は、あそばせ乍ら、常に観察を怠らず、タイミングよくあらゆる点に注意を払い乍ら、かんとくすることを強調して下さる。

③ ゲームの種類：

２０種もの、ゆかいなゲームを１つ１つ細かにプリントされたものを指導下さる。本当に成人に教える場合にも、こうした方法があるのかと目をみはる思いである。研修開始以来、大勢の先生方から次々と本当に有益な教えを頂き、私達は実にめぐまれていると思う。此の仕合せをもっともっと努力して生かさなければならないと改めて思う。

今日は、通大祭でスクーリングは休講なので、小峰先生に明日の分も続けて頂いて、１２時１５分に終了して頂いた。

是で、センターに於ける特別講習は、終りとのこと、どの先生からもそれぞれ素晴らしい、教えを頂いたことを心から感謝致します。

そのあと、団長さんより、来る１８日の第１５回海外教育高校生夏季講習会のメンバーとの交換会

について連絡。丁度皆さんは、体育レクレーション実習でキャンプに行かれるため、参加しない先生方だけ出席することに決まる。

午後からは、いくらか小止みになったようす。皆それぞれ自由時間を過す。レポートを書いたり、そうじをしたり、せんたくにアイロンと。

夜、城田先生が昨夜のビデオを写して下さった。何故か全体緑色にかすんで、ちょっと残念。でも皆の熱演の程は、何となくわかるよう。

特に正善先生の大熱演と城田先生のタカラヅカの男役も顔まけしそうなりりしい男っぷり?!が最高でした。

雨音と窓をガタガタ鳴らす風音を聞き乍ら、今日も1日有意義に過させて頂き、有難うございました。 「Que suena conlos angelitos, colegaso」

村上　記

第63日　　8月18日　木曜日　　くもり、時々雨

台風は行ってしまったらしい。雨のあとなのですごくむし暑い。

午前中のセンターでの講義も昨日で終り、今朝は、なんとなくゆっくりとした気持で出かけられた。

体育レクリエーションのコースをとっている人と、キャンプのみ特別希望して参加する人は、今夜からキャンプをするので、大きな荷物を持って出発。

3時限目は、それぞれ選択科目を受講して、キャンプの人は出発したらしい。行かない人は4時限目、片山先生の国語（専）の教室で、眠けと戦いながら、かなづかいについての講義を受ける。

普段、何も考えることなく使っている言葉にも、書くとなると考えなければならない言葉が少なくないことを教えられた。

特に"じ"と"ぢ"、"づ"と"ず"の使い方を色々くわしく説明して下さった。

夜、千葉県の海外教育高校生夏期講習会でセンターに来ている高校生25人余と7人の先生方に、住んでいる国のことについて話してほしいと云われ、残っている4人が、それぞれ村上先生はペルーのこと、城田先生と復先生は、ブラジルのこと、私はボリビアのことを話したが、女の子ばかりの、（男子は1人）せいか、あまり反応はなかったように思った。海外と云っても、たぶんアメリカの大都会とかパリーとかロンドンなどのはなやかな外国の地を夢みているのではないかと思う。

それにしても、廊下で会っても知らん顔、こちらから挨拶の声をかけても、どの生徒からも返事がなくてびっくりした。

4人が4人とも、別の所で別の時間に別々の生徒に声をかけて返事がなく、日本語が通じないのかと、少々あっけにとられて4人そろって"どうゆう教育を受けてるのだろうね""先生は何を教えてるのか"なんてつぶやき合ってしまったが、話し合いの場では発言のない生徒たちが、それぞれの部屋へ帰ってから、あたりかまわぬ大声で、おしゃべりをしあっているのが夜半をすぎても終りそうもない。

あんなものよねえ、あの年代は。と云うのが我々4人の結論？でした。

二階堂　記

第６４日　　８月１９日　金曜日　　晴

昨日から「子供の国」で体育レクリェーションのキャンプ実習が行なわれている。第１日目は雨で悩まされたが、幸い今日は晴天だ。

朝のつどいが６：３０Ａ.Ｍ.に行なわれた後、すぐ朝食の用意にとりかかる。献立はパン・牛乳・野菜サラダである。授業のある人達は８：００Ａ.Ｍ.頃にキャンプ場を出て、のこった人達は石井先生にオリエンテーリングの基礎知識を学び（シルバーコンパス、地図よみ、歩測、ＯＬとは）。

その後の自由時間は「子供の国」めぐりをやる。ブランコに乗ったり、自転車に乗ったりで楽しいひとときを過ごす。

３：００Ｐ．ｍからはキャンプ場の管理運営についての話し。キャンプファイヤーでの各班の出しもの（スタンツ）を３０分で準備するようにと言われ、いそいでやる。

４：００Ｐ．ｍ炊飯活動に入る。今夜は南米パラグアイのギーソである。あまりおいしくできなかったのかギーソをのこす班もあった。

７：００Ｐ．ｍからキャンプファイヤーをやる。中南米の先生方は各班の出しものに、参加した後「前夜祭」でやったおどりと「中南米を語る会」で歌った"HIMNO DE LAS AMERICAS"をやり好評うける。

キャンプファイヤーの後は班会議を各班ごとにやる。楽しい夜であった。

小松　記

第６５日　　８月２０日　土曜日　　晴れ

今日は、２泊３日のキャンプ実習最終日。緑の丘に囲まれたキャンプ場の朝は早い、６時起床、冷んやりと心地よい水道の水で歯を磨き洗顔す。高地の広場で大自然に囲まれた新鮮な朝の空気を吸い乍ら６時半よりラジオ体操をする後、炊事場へ行って炊飯活動に移る、男の学生達も包丁の手さばき鮮やかにきゅうりや人参を切っていく、集団生活ならではの貴重な経験である。コーヒーに盛り沢山のサラダにゆで玉子の朝食を摂る。玉大へ登校する者は出掛け、残って学習する人は歌の勉強をす。

（コブナ、タヌキ、キツネ、ネコ。トッテンチンテンカン、ドレミの歌、四季の歌、山への祈り、小さな花。星の界、野菊、　の歌）。次にきのうの続きのオリエンテーション。シルバーコンパスを使って６ケ所のポスターを探して歩く。厳しき山道をよじ登ったり、ゆらゆらゆれる吊り橋を渡ったり、トンネルをくぐったり、間違って元の場所にかえったりしてやっとポスターを見つけた時の安堵と喜び//１２時、予定通り元の炊事場に戻る。レストランでライスカレーを食べる。２時半より白樺の丸太を切った板に絵を描いてねじくぎをつけひもでぶら下げてキャンプクラフトを作る。それぞれ

オリジナルな素敵な記念品ができ上る。3時テントをたたむ。4時閉村式：23才の女性、73才の男性の代表2人によって玉川校旗が下ろされ、玉川校歌斉唱、次に石井先生に依る挨拶：「ハードなキャンプを無事怪我人も病人もでなくて幸せである事をお互に感謝したい、私達は大自然の中にいて大自然に触れた喜びがあり、静かに自然から受けた恩恵がある。それぞれの心の中で目をつぶって感謝の祈りを捧げよう」。黙禱。

荷物を小型バスで玉大迄運んでもらい6時半センターに着く、冷たいシャワーを浴びて3日間の疲れを癒し就寝。

貝原　記

第66日　　8月21日　日曜日　　雨

昨日の2泊3日のキャンプ実習から帰ったので、少々寝不足もあり、その取り返しに今朝は9時頃までぐっすり、天候もぐらっと変わり、涼しく雨の音。人一倍の汗かきの私には最高。

さて、日曜日だからとて、ボヤボヤして居られない、後、指おりとなりつゝ、この研修をより生かし、有効にと　……。

今日は目の前にせまって来ている郷里研修の件について、電話をかけたり、お手紙を書いたり、あれも、これもと考え乍ら、結局は買物へ出かける事になった。時間はすでに11時半なので、木場先生と2人で買物、富永先生はお姉さんのお家へ行かれると途中で別かれた。行き先は上野のアメ横、夏物は今日位までだと言うので、何もかも、ほったらかして出かけ所。

アメ横はいつ来ても人波が多くて、衣類を買って居てもどこからか生ぐさい香りが何んとなく鼻につく。行き当りばったりで入ったデパートで買物を終えた頃は、もう6時頃。上野のレストランで夕食をすませ、8時にセンターへ着く。

センターはひっそり、お出かけやら、買物やら、レポートを書いて居られる先生やら。私はさっそく、名古屋、岐阜、東京の親戚の方々へ電話をかけた。調子よく用件を果す事が出来たので最高。

血のつながりある親戚とは心強く有難いとしみじみ感じた。

今日1日無事に過す事が出来、感謝致します//。

羽広　記

第67日　　8月22日　月曜日　　曇

キャンプの疲れが、いささか残っているのか、今日は7時半の起床ミュージックに起される。

センターでの授業は終了したが今日は10時20分より小原芳明先生の特別授業ということで、遅刻しないようにと厳重なる忠告を受け、テープレコーダーを持参し、期待に胸をふくらませて工学部会議室にて待つこと10分。

ご入室になられた先生が、何をお話しになるか全員で注目すると先生は「今日はアンケートを記入

していただきます」とのこと。「先生の特別講義と言われて楽しみに来たのですが」……と申し上げると、先生は「アハハ……私が話したら、又この間、しゃべったことと同じになってしまいますよ。」と笑っておられた。

アンケート、１枚目は研修日程第１期の１３人の先生方の特別講義の１つ１つについて授業数、難易度、授業内容について、２枚目は第２期のスクーリングについてと各学校訪問、東京見物、鎌倉小旅行、伊豆長岡夏季大学についてのアンケートだった。

アンケートのことは事前に通知してほしい。そうすれば、いろいろなことをもっと充実した意見にまとめられたでしょうにということをアンケート用紙に記入。

第３時限（１２：４０～１４：００）は、それぞれ選択科目ごとに別れる。私達は日名子先生の児童心理学。児童心理を学ばずして教師と名のるべからずと、先生がおっしゃるとおり、児童心理学を勉強することは、本当に必要なことと思う。

第４時限、５時限は、体育及びレクリエーション指導。石井先生の情熱あふれる、実践的講義は非常に有意義である。残る１時間は、学生達にレポート作成のための自習時間を与え、その間、我々中南米５人（石川、小田、木場、羽広、富永）と石井先生とで今回の日本研修の意義を話し合う。

スクーリング第Ⅱ期の終了を間近にし、レポート提出日も明後日と迫るし、正善先生へのCarta de Amor（随筆と短歌）も書かなければ、荷物まとめもしなければとあれも、これもと気がせくことばかり。毎晩１時、２時の就寝に少なからずバテ気味。それでも、そのおかげで痩身が叶ったのであれば"Gracas a研修"と言うべきであろう。

さあ、頑張ってレポートを仕上げましょう!!。

富永　記

第６８日　　８月２３日　火曜日　曇り（２８℃～３１℃）

起床６時と共に第２期レポート作成に全力をしぼった時点より本日が始まる。

私は夕べ早く休んだが多くの研修生の皆さんは夜遅くまでレポート作りに頑張っておられた様で今朝は起床音楽が流れるまで、ゆっくり休んでおられた。

７時５０分の体操に間に合う様に３階から駆け下り、体操場へ滑り込みセーフ。朝の体操は仲々気持が良く１日にしまりのある生活を与えてくれる感じがする。

台風５～６～７号を１度に（経験）受けた後１０年来と云う（３７℃と言う）猛烈な暑さも過し２～３日前から曇りがちとなり気温も下り、何だかこのまま秋に入ってしまう感じがする。

本日は午前中講義がなかったので各自それぞれレポートを書いたり身の回りの整理をし、３時限の授業に間に合う様に玉川学園へ向ってセンターを出発馴れたもんである。スムーズに１時間少しで玉川学園前駅に到着。

本日は私達研修生にとって最後の授業となり、一同慎重に講義を受けた事と思います。私、富永先

生、羽広、石川、小田先生の最後の授業は石井先生の“体育及びレクリェーション”で先日キャンプで使用した道具の後片付けをし、再び短大２０１号室へ戻り、シルバ・コンパスの使用について学び、４時３０分明日の日程を語り解散。私達キャンプの１班組は小田急近くのレストランへ行き、お別れ夕食会を開き、キャンプ及び南米の話に花を咲かせ、６時過ぎ別れをおしみながら解散。

私と富永先生は根岸のセンターへと足取り重く電車に乗る。車中で我　想う……　「教科書が重かった……」　然し、その重さの中身が玉川学園に於いての講義で私達の脳並びに心に刻み込まれたのだ……。玉川の丘での２か月の研修も終り数多くの事を身につけ、沢山の友を知り、同じ仲間として学んだ者同志が肩を組み合って歌った姿は、真に清らかで、美しく一生忘れられぬ想い出となるでしょう。

第３期つまり後半になりました。体には充分気を付け、最後まで有意義な生活を送りましょう。

ADEUS "SALA DE AULA" DA TAMAGAWA"

木場　記

第６９日　　８月２４日　水曜日　　晴

研修第２期スクリーングも無事に済み今日は移住センターの江崎職員の案内で事業団への研修中間報告の日です。

何時も何かにつけて御世話して下さる江崎職員の親切な案内で根岸９時出発、電車の中で馴れたもの現地語まじりの会話、乗客の視線が集る。新宿着１０時過ぎ日本建築界に誇る三井ビルの４５階、１５０ｍを１０秒余りで上昇するエレベータの速さとショックを与えない「機能」すばらしいもの、話に聞くと地震の時はぐーらぐーら動くのが隣近ビルとで分るのだそうです考えるとヒヤッと余計な事を頭に浮べたり。

事業団の会議室で１０時半より北村部長初め各課長係りの方、玉川の国際部から地主さん、そして私達研修生クババイさん正善先生が出席され部長さんの挨拶でご苦労を労れ本邦研修と文化交流の使節の意義を強く説明され、持場職場での責任をまっとうしていただくよう要望されました。

私の経過報告から始まり各自の感想なり要望を話され内容に依っては緊張感に包まれたり、爆笑したり、なごやかに会は進みました。

内　容

1）国際協力事業団への今回の研修に参加のチャンスを与えられた敬意

2）移住センター→玉川学園の通学の重荷（時間的、労費）

3）前年度の研修生との関連の云々

4）研修生としての訪日前の基礎知識　etc

5）教材の配布と適要性

6）玉川学園にて特別講義の好評

7) 夏期スクーリングの通大生との交友、自主性を養う

8) 移住センターでの諸先生の講義の現地授業に対して実践的な内容時間不足がち等

朝食事の時も意見が交換され後旅券、飛行切符、帰国予定日など夕方まで続き解散し各グループに分れて根岸に帰えった。

石川　記

第７０日　　８月２５日　木曜日

スクーリング終了式。

午后３時からなので、一同、ゆっくり準備して出かける。

式では我々中南米グループは１番前に席が用意してあった。普段は、なかなかおめにかかれない小原学長先生の、語りかけるような言葉に感激する。

きどらない親しみを感じさせる学長のもとに居られる多くの先生方が、やはり親しみのある方々ばかりなのもうなづけるような気がする。

自分自身も生徒から親まれる先生になることが、教える立場に立つ者として第１ではないかと玉川の先生方に接して痛感した。

中南米クラスでは、団長がお礼の言葉をのべ、副団長が花束を贈って一同の感謝の気持をあらわした。式が終って、それぞれ科目のクラスや、キャンプなどで親しくなったスクーリングの学生と記念写真を撮りあったり、挨拶をかわしたりして体育館の外は、しばらくにぎやかだった。

明日から関西旅行、そして郷里研修に、はいるので、みんなおそくまで準備をしているようだ。

二階堂　記

第７１日　　８月２６日　金曜日　　曇のち晴

朝早くからどの部屋も、ごそごそ、がさごそ、物音がする。私ばかりが手荷物に気を使って出したり入れたり、いかに荷物を少なくするかで苦心して様ではない。やっぱり諸先生荷物の事で昨夜は、ゆっくりお休みになれなかったのではなかったのかしら、ちょっぴり心配、子供の頃の修学旅行と似た気持、異るとしたら、郷里へのお土産の心配、何１０年ぶりの帰郷の方もいらっしゃる。

７時４５分センター出発、諸先生運びきれない程の手荷物。新横浜より新幹線で、京都、奈良の関西旅行に向う。車中、おしゃべりをしたり、居眠りをしたり、各々昼食をとり、１２時３５分京都に着く、ロッカーに荷物を預け、一同やれやれ、市内観光バスで、平安神宮、三十三間堂、金閣寺、清水寺を巡る。珍しい土産ものが目にとまり、立止って見たが日本にいる間は時間厳守をしなければと、土産ものを振り返り眺めながら通り過ぎた。ちっと残念まあいい！財布の紐を引き締めよう。

京の都の歴史は古く、その物語にもいとまがない。しかし、近代化が進む日本の国の中で古い都のたたずまいを残す苦労は大変なものだと思う。

古い日本の文化を残すべく努力している、日本の皆様、私達の心のふるさと、日本の　点をどうか大切に保存して下さい。市内を一巡し、京都駅に帰る。

旅行先より郷里に向う先生が多く、みな軽装どころか、荷物に引きずられる格好で長い階段の昇降に夕方6時、大阪、茨木国際協力事業団センターに、くたくたになって到着。7時より、センター内で行なわれている。

東南アジア、アフリカより研修留学して来ている生徒の日本語の授業を見学する。「今日は、中南米より日本語の先生が、いらっしゃいました」と先生がゆっくりおつしゃり、いらっしゃると言う語について説明し、活用させ、いらっしゃる、来る、きました等の語を使って1人1人話させていた。

7時半より、和、洋とり合わせた豪華なごちそうが出され、センターの諸先生の紹介のあと意見を交わしながら和やかなパーティが続き、10時解散、夕方の疲労も、お美味しいごちそうに舌づつみを打ち、話に花が咲き、名残り惜しい別れであった。

宿舎に当てられた部屋は大変立派で心も安らぎ、楽しい旅の疲れをいやしてくれる。

明日の奈良旅行を楽しみに、皆さん、お休みなさい。

城田　記

第72日　　8月27日　土曜日

関　西　旅　行　第2日目

奈　良　見　物

観光コース　―　大仏殿　―　春日大社　―　興福寺　―　春日奥山ドライブ　―　若草山頂　―　十国台

大阪国際センターで8時から朝食を取る。センター前出発8時50分、バスで茨木駅前まで。

茨木　―　新大阪　―　難波　―　奈良、（難波ー奈良間は特急）

奈良駅付近で各々昼食を済ませてから、12時15分発の観光バスに乗る。東大寺は、有名な奈良の大仏殿のある所、20数年前、中学3年の修学旅行に来た所、京都と共に想い出深い場所であるが、大仏さまは、昔と全然変りなく、でんと座っておられるが、その間、幾百万人の人々がお参りに来たことやら。春日神社の参道には、2千の石灯籠、そして廻廊に千の釣灯籠がある。この参道にも鹿が戯れている。

本殿の中には、若宮社、本宮社が祀られている。

宝物殿の中には、平安、鎌倉、南北朝時代にわたる刀剣、甲冑など重要文化財、美術品などが収蔵されていた。

万葉植物園には、万葉集に出てくる約3百種のさまざまな物が植栽されている。又、天然記念物には、約1千頭の鹿がいる。ガイドさんの説明によると奈良の代表的なものは、大仏さまと、鹿の角切りである由。

その昔、春日神社の釣灯籠でたかれた灯煤で造られた由来の墨を記念に買う。中門では、８００年の御神木、杉の木がある。

また１本の台木から、いすふじ、椿、南天、庭とと、さくら、もみじ等７種の植物が出ている。

珍らしい樹木がある。緑の山に映ゆる濃朱鬱色の興福寺は山門の所で参拝して、バスは、春日奥山のドライブウエーへと向う。

若草山を頭上に、三笠山の中腹をバスが走る。バスの窓、右下を柳生の里への小道が続く、その昔柳生１族が栄えた部落を眼下に、原始の森の葉隠れに遠く大和平野を望む。

奥山にもみじ踏み分け啼く鹿の声きくときぞ秋は悲しき。

平安朝時代、猿丸大夫が詠んだ和歌をしみじみとかみしめる。大原橋を見て、うぐいすの滝を通り過ぎると、やがて、若草山の中腹にバスは到着。若草山の頂上の展望台、奈良の都の全景を一望に見渡す。左下に三笠山を見下す。

元正天皇の時代に、留学生として唐に渡った１６才の少年安倍仲磨は、異国の地で、故郷を偲び詠んだという和歌、万葉集の中でも有名な歌。

天の原ふりさけ見たば春日なる三笠の山に出でし月かも。

若草山の頂上では、足元から昇ってくる月が見られるだろう。

この頂上でもたくさんの鹿の群であるが、ガイドさんに依れば4,０７５頭の鹿が現在奈良の都にいると云うことである。若草山を下りにバスはおりて行くと、大仏池のそばに出る。予定のコースを終り、振り出しに戻ったバスはやがて奈良の駅へと向う。朝のコースを逆もどりして、途中、多少のハプニングも起ったが、ほぼ予定通りに大阪のセンターへ帰館した。

夕食後、木場先生のアニベサーリョを開催、ささやかなみんなの心づくしではあるが、旅先の友情の団結は、木場先生は元より各々の心にきざみ、関西旅行と共に忘れ得ぬ思い出となる事であろう。

木場先生、おめでとう!!バラベンス!!アニベサーリョ。

夢に見し奈良の奥山ひたすらに

夏の木立ちをバスは過ぎゆく

榎　記

第７３日　　８月２８日　日曜日　　暑い

茨木市にある大阪国際研修センターで朝食後解散。

研修員各々、いそいそと南は沖縄から北は北海道まで郷里研修の旅に出かけた。

郷 里 研 修

第８３日　　９月７日　　水曜日　　雨がふり出した。

佐藤　記

第８４日　　９月８日　　木曜日　　あめ

郷里研修の１０日間は、学校見学、親戚回り、などで毎日忙しくアッという間に過ぎ、今日は、１０日ぶりの再会。皆さん太ったり、やせたりさまざまな過ごし方をされた様。何だか、久しぶりに会ったせいか、とてもなつかしい。

「小学校の講堂で話しをさせられちゃった。」「新聞に出されてねェー。」「父と母の生まれた所に行ってね。」と話しは延々とつきない。特におもしろかったのは、岐阜県と長野県にそれぞれ研修に出かけられた榎先生と羽広先生。

実は県境同志でとなり村だったそうで、会ったり、電話したりなさったとか。世の中狭いんだなァー。……と郷里研修の気分にひたってばかりはいらない。

今日からレポートに追われる日々の始まり、始まりィ

Climb every mountain　（すべての山にのぼれ）　!!　♫

がんばらねば。

山　記

第８５日　　９月９日　　金曜日

曇った空。秋を思わす雨が降ったり、止んだり。

今日は皆さん郷里研修の旅のつかれも取れ、さっぱりした様子である。

午前は、レポートを書く。羽広、二階堂、榎、木場先生方４人は、今宵の謝恩会の為の買物に出られる。スクーリング期間中、センターで午前講習をして下さった、河原崎、藤田、白鳥、小峰先生方それに正善先生御夫妻をお招きしてのパンケッテ（宴）の用意を皆で手分けしてする。

あちら風に野菜サラダをたっぷり盛り上げ、色どり美しいテーブルが出来上って一同大満足である。

定刻、小雨の中を先生方が、お出でになり、小田先生の司会で石川先生のあいさつ、それから、お１人、お１人の先生方からお言葉があった。後１週間で研修終了を控え、何となく心楽しく、カラオケにおはこを出して、さても賑やかなこと。お経できたえられた？という藤田先生の美声にうっとり負けじとバラグアイの山先生の熱唱、河原崎先生と小峰先生の高低コンビの息の合った。まん才に涙を出して皆笑いころげた。

続いて今月お誕生日をされる榎、羽広、両先生と江崎職員さんの誕生会を行う。ハッピーバスディの合唱、かわいいケーキに各々ナイフを入れ、小さなプレゼントをおくる。拍手、拍手そしてキッスの雨とそれは、それは賑やかなことである。

それから、ケーキを頂き乍ら又カラオケに盛上って、散会したのは１１時であった。

尚、事業団より箱根旅行を希望するなら、バスを出して下さるとのことであったが、もう後わずかな日しか残っていないし、未だレポートを終へるという大仕事があるため、実現せぬこととなった。

もう少し早い時点であったらと残念に思った。先生方をお送りして後も、約1時間、のこりものをつまみ乍ら歓談を続け、後片付けを、ざっとしてやすみについたのはすでに零時をまわっていた。

本当に和やかで、心たのしい1日であった。

心から感謝して、シャワーにつかれをいやし、寝につく。

村上　記

第86日　　9月10日　土曜日　　晴

昨夜の謝恩会のあとかたづけをして、研修最後の土曜日をそれぞれ有効にすごしたようだ。

事業団の報告書を書いている先生もいる。帰りの荷作りを始めた先生もいる。買い物をして両手に持ちきれない程かかえて帰って来た先生もいたりで、研修の終りが近づいたことを感じさせられる1日だった。

二階堂　記

第87日　　9月11日　日曜日　　晴

今日は、研修最後の日曜日である。

友人に会いに出かける先生、買物に出かける先生、レポートを書いたり、荷作りする先生方もいる。

それぞれ、いそがしい日を過ごした。

小松　記

第88日　　9月12日　月曜日　　晴

午前中、事業団から来られた旅行社の方と、帰国手続きをする。早く帰りたい人、出来るだけ、ゆっくりしたい人、さまざま。

9月19日にリマの村上先生がひとりで第1陣。

そのあと、ひとりで、2人でと帰り10月7日、5人が出発。を最後に中南米グループは、日本から姿を消すことになる。

帰る日を決めたら、さっそくおみやげを買いに出かける人、さっそく荷物を整理始める人、迎えをたのむ手紙を書く人、それぞれに行動開始、休日をを充分に使ってすごした。

羽広　記

第89日　　9月13日　火曜日　　晴れ

今日は、ジャパン．インターナショナル．スクール参観日。

9時、根岸駅出発、原宿駅で引率して下さる、正善先生と待ち合わせ原宿駅より徒歩で15分位で着く。10時より授業参観。先ず空手指導をしているクラス参観、そこでは、いい姿勢と悪い姿勢を、教えていた。いろんな人種の生徒が集っていたが、言葉のわからないせいか気の散る生徒がいたが先生は肩に両手をかけ、愛情深く根気よく教えて、おられた。

空手指導をすることに依り授業態度がよくなったということです。次は金森まり先生の日語指導の参観。絵カードの絵と字を見せ乍ら、くまの「く」と教える。こんどはくまのおもちゃを見せ「これはなに？」とたずね、答えられたら先生は「くま」を生徒にプレゼントしてしまった。うまく子供の心理をつかんだ指導をしておられた。後、自由に他のクラスを参観し、最後に校長先生が私達のために、特別、時間をさいてお話をして下さった。校長先生は豊満な魅力的なアメリカ女性で情熱的な瞳で人類愛について話をされた。そして、この度は、大韓航空事件で生徒を失うという悲しい出来事に出会ったが、世界中の人が子供の教育の中で、2度と戦争をおこしてはならない様教えていかねばならないと力説された。

1時30分ジャパン．インターナショナル．スクールに別れを告げ駅近くのレストランで昼食をとり、5時よりの謝恩会に間に合う様、玉大前のレストラン「コスモス」に出掛ける。5時謝恩会開始、〔玉大側、出席者〕石川先生、上原先生、小野先生、片山先生、佐藤先生、正善先生、迫先生、松浦事務局長、高橋（幼稚園）、園長、小原先生、山路様、地主様、吉成様以上14名、中南米研修生14名、計28名、小田先生の司会に依り国際教育室々長の小原先生の挨拶のお言葉があり中南米研修生側より石川先生が挨拶をされた、後、玉大の各先生方から一言づつ有益なお話があり、中南米組より自己紹介と各自の感想が述べられた。上原先生の演歌を皮切りに、それぞれ得意の18番が出て宴は賑やかになり時間の経つのも忘れていたが用事のある先生もあることだし、全員隣り肩に手をかけて「きようの日は、さようなら」を歌い8時に一応お開きとす、残れる先生達は、2次会に移り余興は続いて全員シャロームを歌って別れを惜しんだのは11時であった。

貝原　記

第90日　　9月14日　水曜日　晴

センターの送別パーティを近くのおすし屋さんでしていただいた。

センターからは所長以下4名の方、我々は全員出席。次々とはこばれる日本の味を、忘れまいとして、充分にいただいた。

カラオケで、うたったり、にぎやかな、たのしい時をすごすことが出来、よい想い出が出来た。

センターのみなさん、ありがとうございました。

羽広　記

第９１日　　９月１５日　木曜日　　雨

今日は、敬老の日。あちこちで色々な行事があるようだ。

老人を敬う、人生の先輩として、色々な意味で敬うべき存在であるが、敬老の日だけでなく、おとしよりを大切にする毎日でなければならないと思う。

明１６日の玉川学園の終了式。事業団の終了式までに提出するレポート、報告書など、最後の仕上げに一同必死になっている。（すでに終っての　―　んびりしているひともいるが）

ここ２、３日、夜はパーティでおそくなっていたので、たまっているひとは、たいへんだ。

こんなに早く報告書を提出する日が来ようとは思わなかった。３ケ月とは、ずいぶん先のことのように思って来たが、夢中ですごしているうちに、いつのまにか３ケ月になってしまったのだ。

１日いちにちを大切にすごさなければ、後悔しても、どうにもならないことになってしまう。

玉川での１日、本当に、そのひととき、ひとときが大切な経験をしていたのであり、学ぶべきときであったのだ。日本語を教える立場にある者として、ことばや字を教えるだけでなく"心"を伝えることの出来る先生にならなければと、あのみどりの丘の上に立つ学校を想うとき、先生方から受けた心を大切にしていきたいと思う。

二階堂　記

第９２日　　９月１６日　金曜日　　小雨　２３℃

起床６時と共に身の回り品の整理をし朝食をとる。

本日は泣いても笑っても、とうとう最後の研修日程である。８：４０分全員揃って玉川学園へとセンターを出発！　最後の日がちよう度、私達が訪日した時同様に小雨ではだ寒く、もう夏服を着ている人は程んどいない。本日で研修生全員で此の歩き馴れた根岸→玉川大学への登校も最後かと思えば、何となく淋しい感じて電車に乗る。

来た当時は２時間もかかって登校したのが最近は、順調に乗り継ぎが出来る様になり、本日は１０時少し過ぎに着いた。時間が早いので、学園の購買部へ寄って皆さん沢山買物をしておられた。

１０：５５分工学部前へ集合し、１１：００、玉川学園の頂上、三角点へ記念樹、植付けの為、研修生全員と鏑木課長（国際協力事業団）、正善先生、小原芳明先生の皆さんと登る。

小雨が降り樹（さくら）木植付けにはモッテコイの日よりであるが我々の新調した洋服や靴はどろでまっ黒……これも１つの記念（想い出）である……。

全員で少しずつ土をかけ記念樹の前で記念写真をとる。前回の皆さんの植えた木も大分大きくなってる。来年の今頃は私達が植えたさくらの木も、これ位伸びていることでしょうーと思い後をふり返える。後、工学部の会議室にて終了式。研修生１同１人１人学長先生より終了証書を有難く頂載、全く感謝感激である。そして送別会、美味しい御馳走をいただき乍ら、学園の諸先生方と写真を写したり話をしたり……で、本当に名残り惜しい。時間になったので、お別れをし私達は新宿の三井ビル、

４５階事業団本部へと足を運ぶ。私達研修生の閉講式である。

午後３：３０分鏑木課長の司会で閉講式始まり一同姿勢を正し、きんちょう気味である。北村部長より１人１人終了証書頂き、早速、最後の報告会である。各自思い思いに報告をした後玉川大学の先生方の激励のお言葉を受け再び送別会となる。

本日は２枚の終了証書並びに送別会を催して頂き何とも云われない感じがする。御馳走が沢山あったが学園及び事業団の方々との最後の会話に名残り惜しく御馳走を食べずお話をしていた方々が多くいた様だ。

国際協力事業団、玉川学園の諸先生方、事務局長、国際室並びに根岸の移住センターの皆さん、本当にお世話下さいまして有難度う御座居ました。

最後に皆様方の御健康、御多幸をお祈り致しペンを留めます。

今日の日はさようなら！

木場　記

第９３日　　９月１７日　土曜日　　晴

センターでむかえる最後の朝。

今日は、それぞれの方向へ別れて行く。色々なことを学んだ３ケ月忙しい３ケ月だった。けれども１４名がひとりもケガも病気もなく、すごせたことは、とてもありがたいことであった。

違う環境、違う生活の中から、年令の違いも越えて、日本語を教えるためにと云う目的のためだけに集まって３ケ月もの間、文字通り寝食を共にして、こんなにうまくいくとは思わなかった。

小さなぶつかり合いがあっても、相手を認め合って、うまく解決し、いつもいっしょに行動出来たことは、すばらしい体験であったと思う。

たくさん学んだことを現地へ帰って伝えるのは、もちろんだが、１４人の家族？としてすごした経験も、また伝えるべきものが、たくさんあるのではないかと思う。

たくさんの方々に、お会い出来、たくさんの教えを色んなかたちで教わりました。

心から御礼申します。

小松　記

歌集

―かけ橋―

紫陽花

ブラジル　リオ・デ・ジャネイロ

富永　由美子

紫陽花の花にあふるる玉川のこのよき園に我ら学ばむ

体操着きかえて今日も勢揃い中年生徒球にたわむる

懐しき我が故郷(ふるさと)の駅に立ち胸ときめきて涙あふるる

玉川の裏山づたい友とゆく紫陽花の花白百合の花

幸せにひたりし時に思い出すブラジルおくわが子等の顔

カアカアとカラスの声に目をさます子供の国はもう明けやらむ

（スクーリングキャンプ）

第二の故国

ブラジル　ベレーン　マナウス

木場　克子

２５年ぶり第２の故国尋ね来てそっとつぶやくことは日本よ

玉川の丘に登りて考えるアマゾンの子等よ今どうしてる

東京タワーにのぼりて感謝す夫と子の留学許せし温かき心

日本の今も昔も変らぬは皇居の色と二重橋かな

スクーリング姿勢を正し我学ぶ通大生と肩を並べて

夢に見し奈良の大仏目前に我は投げるよ１０円玉を

野外にて民族衣裳身につけて踊る我等は日本語教師

（キャンプファイヤー）

かけ橋

ブラジル　ベレーン　トメアスー

榎　末子

玉川の緑したたる丘に来て想いを馳せるアマゾンの子等へ

学び舎の白亜に写すシェルエット我ら日本語研修生なり

小雨降る丘にのぼれば紫陽花の濃むらさきの香に迎えらるる

緑園に学びし我等海越えてつなぐ心のかけ橋とならん

幼稚部のまろき校舎を訪ぬれば胸にネームの笑顔が並ぶ

玉川の丘

ブラジル　サンパウロ　ドウラードス

城田　志津子

教えるより学ぶ教師になりたいと汗拭き登る玉川の丘

書道習う竹の若葉の咸宜園青き畳に鳥の声聞く
横浜の根岸の駅の階段を今日よりのぼる学ぶ三月(みつき)を
若者は黒の眼鏡(めがね)に黒ジャンパー海も眺めず踊り狂える
勉学の夢今かない玉川の文Ⅱの校舎に郭公の鳴く
玉川の緑の丘の赤い屋根六角教室の子等は明るく

故里の桜　　ブラジル　サンパウロ　サンミゲール・アルカンジョ
石川　勤

二十七年の空白おきて帰国せり遅れかえさん本邦研修
ありのまま心に通う玉川の学びの丘に今日よりのぼる
二十七ぶりに朝霧こむる故里の懐しき桜そっと抱きこむ
ひいふうみい唱えつつ上る階段の玉川の丘今日も通う
玉川の天下に誇るエスプリット教師の力若きに学ぶ

歓迎の歌　　ブラジル　レシフエ　テイシェラ・デ・フレイタス
羽宏妙子

飛行機のやがて日本に近づきし夢ではなけれと目覚めて思う
幼稚部の幼き児らの「歓迎の歌」耐えようもなしに涙こぼるる
少しでも玉川精神に近ずかんと祈りつつ今日も通学の途に
汗をふき地震も味わう玉川の思い出深き夏期スクーリング
墨する音無心になりて筆をとる夕立ち来る咸宜園教室
石段の上り下りに靴の底へりはしないかと日本の駅

初対面　　アルゼンティン　ブエノスアイレス　モロン
貝原嗣子

ＪＩＣＡ（国際協力事業団）の胸札見つけ初対面の挨拶交せりサンパウロ空港
訪日のバスの窓外カラフルな屋根鮮やかに草木に映えり
ハトバスの靖国神社の参拝に大戦に生きて遠き日偲びぬ
玉川の緑の丘を登り行けば園児等の声弾みて聞こゆ
鎌倉の大仏巡れば遠き日の修学旅行の友等なつかし

江の電より眺む由比が浜若人の雄々しき姿波のりサーフィン

学びの窓

アルゼンティン　ブエノスアイレス　フロレンシオ・バレーラ

佐藤富美

すばらしき学びの窓に佇みて中年我は身をひきしめる
夢に見し我が門に佇めば霞みたるなり父母の面影
十七年ぬの故里の山仰ぎ見て今は亡き吾子探し求めん
すがすがし緑の森の青空のはばたく鳥に祈りをこめて
自動ドア各種の自動販売機科学日本の高き水準
沿線に沿いて飛びこむ日本の緑の山を飽かず眺むる

パラグァイ　アスンシオン

山　真美子

わが街を生き返らせんと立ち並ぶ緑も若き都の街路樹
この波だこんな香だこの青だゴミすらなつかしふるさとの海
何気なく向かいのホームに目をやれば乗って行きたしはやぶさ1号
墨空にぼたんやなぎにナイヤガラ黒く輝く坊やの瞳
幼な児の低き心を無邪気さと仰ぎつつ我この道歩まん
「お母さんあの鳥にっこり笑ってる」指さす少女にほほえむ父母

勉学の夢

パラグァイ　エンカルナシオン

小田俊春

夕暮のひとりたたずむグランドに思いははるかパラグァイの子等
巡り来し七夕の夜に舌づつみ真心料理夜も更けやらむ
蝉しぐれ夏到来の時つげて思い起せしふるさとの森
夏さなか汗流しつつ戦うは胸に秘めたる勉学の夢
パラグァイの子等に見せたや夏の夜にパッと咲いたる打ち上げ花火
パラグァイより友の来れり懐しき子等のにおいと手紙を持ちて

わが人生の

ボリビア　サンタクルス　サンファン

二階堂　慧子

人ごみの電車につかれてのぼる坂みどりの谷間に心やすらぐ
心して子らに伝えよと師は語る時はふたたびかえり来ざれば
真善美そなえて育つ玉川の心つたえんボリビアの子らに
玉川の坂を登りて学びしはわが人生の最良のとき
教えると云うことのいかにやさしきか学ぶことはむずかしきなり
年月は我を老いへとさそいしが変らぬ山河若き日を想う

両親の祖国

ドミニカ　サント　ドミンゴ

小松和恵

両親の祖国である日本へ来てから、はや1ケ月が過ぎました。
初めての来日でありながら、なぜかとてもなつかしく、
初めて出会う人々や町並、学校などは、
ふしぎなことに、以前、どこかで会ったような、
見たような気がするのです。

すばらしき師や先輩に巡りあい我も負けじと意欲わき出る
ドミニカで知りあいし友と再会す時を忘れて話題花咲く
思い出す青い海原青い空共に歩いたコロニアールソーナ

父の故郷を訪ねて

ペルー　リマ

村上みさお

ここ、岡山県真庭郡、以前河内村といった土地では、戦前戦中を通して、それほど生活難はなかった由、今回はじめて知った。それなのに、海外雄飛を夢みて移住した祖父母は、ずいぶん思いきったものだと、今更ながら驚いたものである。八十才を過ぎて健在の伯母夫婦に、昭和二年十七才で紅顔を希望で輝かせて、今もその時のままで残っている追分駅から出ていった父のことを聞かされ、万感胸に迫るというか、思わず涙してしまった。

忘れがたき故郷

山は昔のままだよ。水も、田んぼも、草も、虫の音も。
ここは父が夜ごと聞かせてくれた故郷の村。

甘い稲の香漂う処。澄みきった山気に心清まる処。
村道をひとり歩めば、瞼にうかぶ学帽りりしい少年の日の父。
あぜ道に下りれば、どぼんどぼんと蛙たち。
せせらぎはつきることなく、露草の花は変らぬ色を見せている。
半世記前乗って出て、帰ることなかった同じ線路を今も汽車は行く。
木造の小さい駅は、あの日のままなんだって……。
黒ずんで、埃がつもって、だけど今も尚息づいていて働いているんだ。
　　美坂追分駅。何という美しい名前。
　　お父さん、どんなにか帰りたかっただろうな。
とうとうあなたは愛する南米の地で、永遠の眠りに就いてしまったけど。
あなたの長女は、今こうしてあなたを偲んでいますよ。

83・9・1

歌の命

ペルー　リマ
東恩納（ひがしおんな）　弘　美

玉川の音楽について、ペルーにいた時から、もうそのお話は聞いておりましたが、実際に授業を受けて、そのすばらしさに感動しました。

知るよりも感じることが大切と音楽の師は歌の命を
先生の情熱にひかれ知らず知らず大きな声にて我歌い出す
明治神宮の清めの場所にて口ずさぎ昔を思い心静まる

編集あとがき

第五回中南米日本語教師研修生１４名、全員による留学記念詩歌集「かけ橋」ができあがりました。

第三回生の「故国に帰り」、第四回生の「海原越えて」につづく、第三の記念詩歌集です。

多忙な研修のなか、折りにふれて、私に寄せてくださった通信の中から、その１部を抜すいしました。

短歌は、ほとんどの方が初めての実作です。

多少の添削などしましたが、ここに掲載の短歌は、ほとんで原作のままです。

お１人お１人の、感動に満ちた３カ月間の思い出の記念碑として、心がうたれます。

研修生の皆さんのご努力に心からお礼を申し上げます。

昭和五十八年九月十六日

記念植樹、修了式のよき日に

玉川大学　正善達三

第５回現地日本語教師本邦研修日程表

本邦研修生一覧

昭和５８年度　中南米日本語教師研修日程　（第１期）

		I 9:00 10:30	II 10:40 12:10	III 13:00 14:30	IV 14:40 16:10	V 16:20 17:50	備考
6. 17	金						
18	土						
19	㊐	オリエンテーション（事業団）					
20	月	事業団本部（懇談会）					
6. 21	火	学園案内	歓迎昼食会	ガイダンス			
22	水			現地授業研究（正善・	文Ⅱ306 ）		
23	木			体育レクリエーション指導（石井・	文Ⅱ502 ）		
24	金		体操（永井・大体育館）	リトミック（小野・リトミック）	現地授業研究（正善・文Ⅱ401 ）		
25	土			13:30 中学部合唱祭（厚木文化会館）	15:10		
26	㊐						
27	月		体操（中山・大体育館）	美術（佐藤・文Ⅱ503）	→		
28	火	8:50 ― 13:00 幼稚部参観			習字（石川・咸宜園）		
29	水		現地授業研究（正善・文Ⅱ307 ）	体操（古谷・大体育館）	現地授業研究（正善・文Ⅱ304 ）		
30	木	8:20 ― 12:00 小学部参観		体育レクリエーション指導（石井・文Ⅱ502 ）		小学部の先生方との懇談会	
7. 1	金		児童音楽（朝日・文Ⅱ503）	リトミック（小野・リトミック）	日本語教育（上原・片山・	正善・文Ⅱ401 ）	
2	土	東京見物	（はとバス）				正善・正善夫人付添
3	㊐						

		I 9:00 10:30	II 10:40 12:10	III 13:00 14:30	IV 14:40 16:10	V 16:20 17:50	備考
4	月		現地授業研究（正善・文Ⅱ306）	美術（佐藤・文Ⅱ503）	→		
5	火		児童音楽（朝日・文Ⅱ503）	児童心理学（日名子・文Ⅱ503）	習字（石川・咸宜園）		
6	水		日本語を考える（片山・文Ⅱ307）	児童心理学（日名子・文Ⅱ306）	現地授業研究（正善・文Ⅱ304）		
7	木	国際学友会見学					
8	金		児童音楽（朝日・文Ⅱ503）	リトミック（小野・リトミック）	海外日本語教育（上原・文Ⅱ502）		
9	土						
10	㊐						
11	月		現地授業研究（正善・文Ⅱ306）	習字（石川・咸宜園）	現地授業研究（正善・文Ⅱ502）		
12	火	大泉小学校見学					
13	水		日本語を考える（片山・文Ⅱ307）	現地授業研究（正善・文Ⅱ306）	→		↑
14	木			教育機器（山口・文Ⅱ201）	→		補講期間
15	金		リトミック（小野・リトミック）	海外日本語教育（上原・文Ⅱ502）	→		↓
16	土						
17	㊐						
18	月	小旅行（鎌倉）	11:00 ― 11:30 長寿寺				↑ 正善・正善夫人国際付添
19	火			習字（石川・咸宜園）	全人教育論（石橋・文Ⅱ210）		期末試験期間
20	水		日本語を考える（片山・文Ⅱ210）	全人教育論（石橋・文Ⅱ210）	→		
21	木	工場見学					正善・国際付添
22	金			13:30 国際交流基金見学			↓
23	土						

（第２期）

		8:40 I 10:00	10:20 II 11:40	12:40 III 14:00	14:20 IV 15:40	16:00 V 17:20	備考
7. 25	月						
26	火	9:00 ― 11:00 オリエンテーション	11:00 ― 12:30 入学式・開講式				テキスト購入
27	水			通大スクーリング各自選択科目による受講。（8月24日迄）			通大スクーリング受講選択
28	木	9:10 ― 10:40 日本語児童教育	①（白鳥・センター）				
29	金	日本語児童教育	②（白鳥・センター）				
30	土						4時限以降授業なし
31	㊐						
8. 1	月						
2	火	日本語児童教育	③（白鳥・センター）				
3	水	日本語児童教育	④（白鳥・センター）				
4	木	学校劇夏期大学（伊豆長岡）					
5	金						
6	土			ＭＯＡ美術館見学（熱海）			授業なし
7	㊐						
8	月	口頭表現 ①	（河原崎・センター）				
9	火	口頭表現 ②	（河原崎・センター）				
10	水	口頭表現 ③	（河原崎・センター）				第１期末試験
11	木	文型・文法 ①	（藤田・センター）				5時限目授業なし

		I 8:40 10:00	II 10:20 11:40	III 12:40 14:00	IV 14:20 15:40	V 16:00 17:20	備考
8. 12	金	文型・文法 ②	（藤田・センター）				
13	土	文型・文法 ③	（藤田・センター）				
14	㊐						
15	月	視聴覚 ①	（河原崎・センター）				
16	火	視聴覚 ②	（河原崎・センター）				18:00 ―前夜祭
17	水	日本語教授法	（小笹・センター）	通大祭			
18	木	日本語教授法	（小笹・センター）				
19	金						
20	土						
21	㊐						
22	月						
23	火						
24	水			中間報告会（事業団）			
25	木			（第3期）	15:30 ―スクーリング閉講式		
26	金	関西研修旅行					
27	土	関西研修旅行					
28	㊐	関西研修旅行					
29	月	出身地研修					
30	火	出身地研修					事業団プログラム

		I	II	III	IV	V	備考
8. 31	水	出身地研修					
9. 1	木	出身地研修					
2	金	出身地研修					
3	土	出身地研修					事業団プログラム
4	㊐	出身地研修					
5	月	出身地研修					
6	火	出身地研修					
7	水	出身地研修					
8	木						研修まとめ
9	金						
10	土						
11	㊐						
12	月						
13	火	ジャパン・インターナショナル・スクール見学					
14	水	挨拶まわり					
15	木	敬老の日					
16	金		玉川学園研修終了式	国際協力事業団 閉講式	送別パーティー		

昭和５８年度現地日本語教師本邦研修生一覧

支部	地区	氏名	性別	年齢	国籍	出身地	学歴	経験年数	学校名
リオ・デ・ジャネイロ	ニテロイ	富永由美子	女	40	日本	熊本	高卒	8	ニテロイ日本語学校
ベレーン	マナウス	木場克子	女	42	ブラジル	青森	高卒	4	エフゼニオ・サーレス日語学校
	トメアスー	榎末子	女	41	日本	岐阜	中卒	4	トメアスー日本語学校
サン・パウロ	ドウラードス	城田志津子	女	46	日本	北海道	高卒	13	共栄日語学校
	サンミゲール・アルカンジョ	石川勤	男	49	日本	福島	高卒	7	サンミゲール・アルカンジョ日本語学校
レシフェ	テイシェラ・デ・フレイタス	羽広妙子	女	39	ブラジル	愛知	中卒	5	テイシエラ日本語学校
ブエノス・アイレス	モロン	貝原嗣子	女	48	アルゼンテイン	岡山	高卒	25	西部日本語学校
	フロレンシオ・バレーラ	佐藤富美	女	46	日本	三重	大卒	4	フロレンシオ・バレーラ日本語学校
アスンシオン	アスンシオン	山真美子	女	26	日本	鹿児島	大卒	3	パラグアイ三育学院
	エンカルナシオン	小田俊春	男	41	日本	広島	中・中退	4	エンカルナシオン日本語学校
サンタ・クルス	サンフアン	二階堂懋子	女	46	日本	北海道		16	サンフアン日語校
サント・ドミンゴ	サント・ドミンゴ	小松和恵	女	25	ドミニカ	高知	大在	5	サント・ドミンゴ日本語学校
リマ	リマ	村上みさお	女	48	ペルー	岡山	中卒	4	ラ・ウニオン総合学校
	リマ	東恩納弘美	女	27	日本	沖縄	中卒	1	ペルー中央日本人会文化部日本語講習会

昭和５７年度現地日本語教師本邦研修生一覧

支部	地区	氏名	性別	年令	国籍	出身地	学歴	経験年数	学校名
リオ・デ・ジャネイロ	カンポ・グランデ	堀場潤子	女	40	日本	福島	高卒	3	カンポ・グランデ日語学校
ベレーン	トメアスー	松崎紀太郎	男	43	ブラジル	福島	高中退	3	トメアスー日語学校
サン・パウロ	カストロ	小林一世	男	51	日本	東京	大中退	7	カストロ奨学舎
	サント・アンドレ	畜田素子	女	47	日本	愛媛	高卒	11	旭日本語学校
ポルト・アレグレ	ポルト・アレグレ	児玉芳子	女	53	日本	鹿児島	大中退	4	ポルト・アレグレ日本語教室
ブエノス・アイレス	コルドバ	今井瑳都子	女	50	日本	宮崎	高卒	15	コルドバ日本語学園
アスンシオン	フラム	小倉正義	男	47.	日本	徳島	中卒	6	サンタローサ日本語学校
サンタ・クルス	オキナワ	大熊豊子	女	42	日本	埼玉	高卒	4	沖縄第一学校
サント・ドミンゴ	コンスタンサ	神前和子	女	36	日本	鹿児島	小中退	5	コンスタンサ日本語学校
リマ	マグダレーナ	棚原恵子	女	28	日本	沖縄	大卒	7	ラ・ウニオン総合学校

昭和５６年度現地日本語教師本邦研修生一覧

支部	氏名	性	年令	国籍	出身県	最終学歴	学校名	学校所在地	経験年数	備考
サン・パウロ	酒井政広	男	48才	日本	東京	高卒	ロンドリーナ文化体育協会	パラナ州 ロンドリーナ市	22年	団長
	木内務	男	41才	日本	静岡	高校中退	イビウーナ日本語学校	サンパウロ州 イビウーナ市	11年	
ベレーン	佐々木邦子	女	36才	日本	兵庫	看護婦養成所	イガラッペス日本学校	パラナ州 イガラッペアス郡	3年	副団長
	大西保子	女	44才	日本	香川	高卒	トメアス文化協会日語学校	パラ州 トメアス郡	3年	
レシーフェ	西山喜多雄	男	56才	日本	愛媛	尋常小学校卒	クビチェック日本語学校	バイヤ州 マッタ・デ・サンジョアン郡	12年	
サンタ・クルス	笹本久美子	女	21才	日本・ボリヴィア	東京	高卒	サンファン日語学校	サンタ・クルス州 サンファン	4年	2世
アスンシオン	博木寿	男	59才	日本	福岡	農学校卒	アコンバイ日本人会	パラグァイ国 アマンバイ県	20年	
サント・ドミンゴ	矢内愛子	女	41才	日本	福島	高卒	ドミニカ日語学校	ドミニカ国 ラベーガ州	11年	
アルゼンティン	塚田弼	男	54才	日本	長野	農学校卒	西部日本語学校	アルゼンティン国 ブエノス・アイレス州	15年	
リマ	森川早苗	女	37才	ペルー	広島	女子専門学校卒	ワラル日本人学校	ペルー国 リマ県	3年	

昭和５５年度現地日本語教師本邦研修生一覧

支部	地区	氏名	年令	経験年数	学校名	生徒数	渡航年	本籍地
ベレーン（ブラジル）	サンタ・イザベル	古和田 道弘	33	5	サンタ・イザベル日伯文化協会	92名	1972年	京都府綾部市五津合町前56番地
	ベラビスタ	小加子川 力雄	61	8	ベラビスタ植民地自治会アサヒ日語学校	56名	1953年	宮城県遠田郡南郷町二郷字才兵工沖名
リオ・デ・ジャネイロ（ブラジル）	フンシャール	加藤 英子	57	13	フンシャール日語学校	48名	1961年	長崎県諫早市高城町734番地
サン・パウロ（ブラジル）	スザノ・フクヒロ	山本 豊	38	8	フクハク日語学校	131名	1960年	兵庫県水上郡春日町野山15
ポルト・アレグレ（ブラジル）	ラーモス	森 徳子	41	3	ラーモス日語学校	48名	1967年	三重県桑名市和泉904
ブエノス・アイレス（アルゼンティン）	アンデス	岸本 久子	54	9	南部メンドサ日語学校	25名	1963年	大阪市浪速区塩草町1134
アスンシオン（パラグァイ）	ピラポ	永見 悦子	40	4	ピラポ中央日語小学校	53名	1960年	高知県高岡郡越知町横畠東226
	アスンシオン	鍋山 紘一	39	2	アスンシオン日本学校	82名	1976年	東京都立川市羽衣町2−28−6
サンタ・クルス（ボリヴィア）	オキナワ第1	儀間 弘治	40	9	オキナワ第1日語校	101名	1958年	沖縄県中　郡読谷村字　名渡
	サンファン	深浦 晴子	49	15	サンファン日語学校	207名	1961年	長崎県長崎市東立神町74

昭和５４年度現地日本語教師本邦研修生一覧

支部名	教師名	学校名	生徒数	経営形態	授業時間	備考
ベレーン支部	上田和子	サンタイザベル日語学校	88名	日本人会の中の教育委員会	週 3～5hr 年 200hr	日語のみ
レシーフェ支部	西本フミ	ウナ植民地日語学校	25名	個人	週 3hr 年 200hr	日語のみ
サン・パウロ支部	森勝礼之	カショエリンニャだるま塾	65名	個人 日本人会後援	週 33hr 年 1,320hr	日語、音楽、体育、図工
	渡辺次雄	アラサツーバ日本語学校	348名	日本人会経営	週 7.5hr 年 300hr	日語、絵画、音楽
サント・ドミンゴ支部	上原邑子	ドミニカ日本語学校	38名	個人	週 7hr 年 367hr	日語
リマ事務所	橋田久子	ラ・ビクトリア小学校	389名	父母会経営	週 5hr 年 150hr	日語
サンタ・クルス支部	高野美喜夫	サンファン日語校	188名	日本人会経営	週 10hr 年 320hr	日語、数学、社会、情操教育
アスンシオン支部	野本武生	サンタローサ日本語小学校	66名	日本人会経営	週 4hr 年 225hr	日語、算数
ブエノス・アイレス支部	石川宏紀	ビジャ・エリサ日本語学校	24名	父兄会経営	週 9hr 年 410hr	日語、音楽、工作、絵画、体操
	古川鶴雄	ノルチ日本語学校	66名	日本語クラブ	週 16hr 年 660hr	日語

JICA